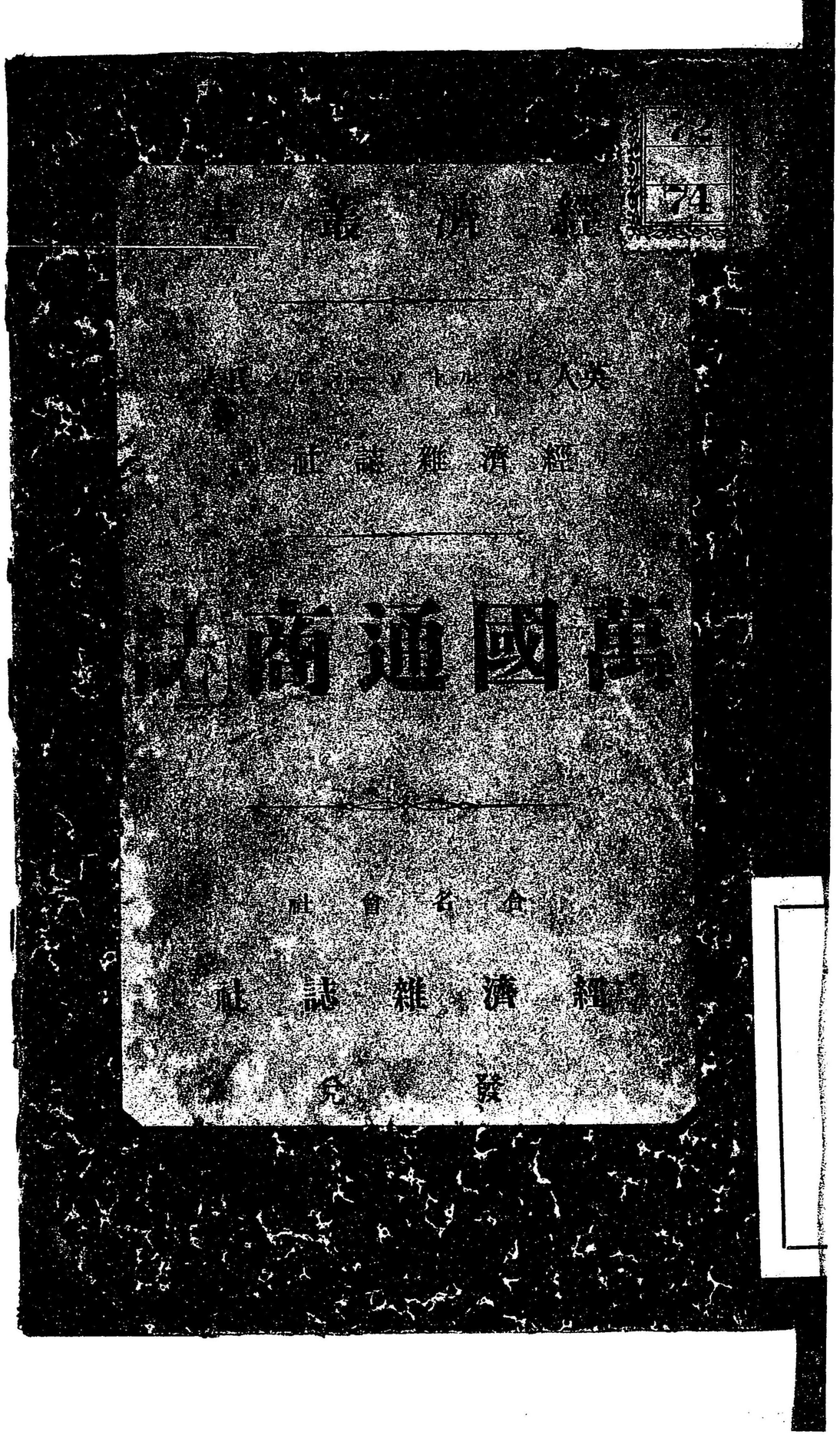


044357-000-7

72-74

万国通商史

ロベルト・ソーメルス/著

M28

BDN-0428

72-74

緒言

商業の學科には邦國貿易の源流沿革等に關する一科あり、然るに此種の著書今日世に乏しきは遺憾なりと謂ふ可し、弊社曩きに千八百九十年紐育出版の學藝全書（エンサイクロペディアブリタニカ）を獲て、其の中、英人ロベルト、ソーメルス氏の著に係る通商篇を讀むに、叙事簡明、古今各國通商の大勢自ら瞭然たり、其の初學に有益の書なるを知り、相共に謀りて之を譯す、譯成の日、題して萬國通商史と曰ふ、卷中の地圖は譯者の新たに加へたるものにして、書中に記する古今地理の大要を示し、以て讀者に便せんと謀りたるものなり、

明治二十八年三月

經濟雑誌社に於て

譯者誌

萬國通商史

目次

第壹回　萬國通商の釋義。聖書中に載せたる通商上の記事。亞刺比亞人（アラビヤ）の外國貿易。非尼西亞人（フイニシヤ）の殖民事業。……一

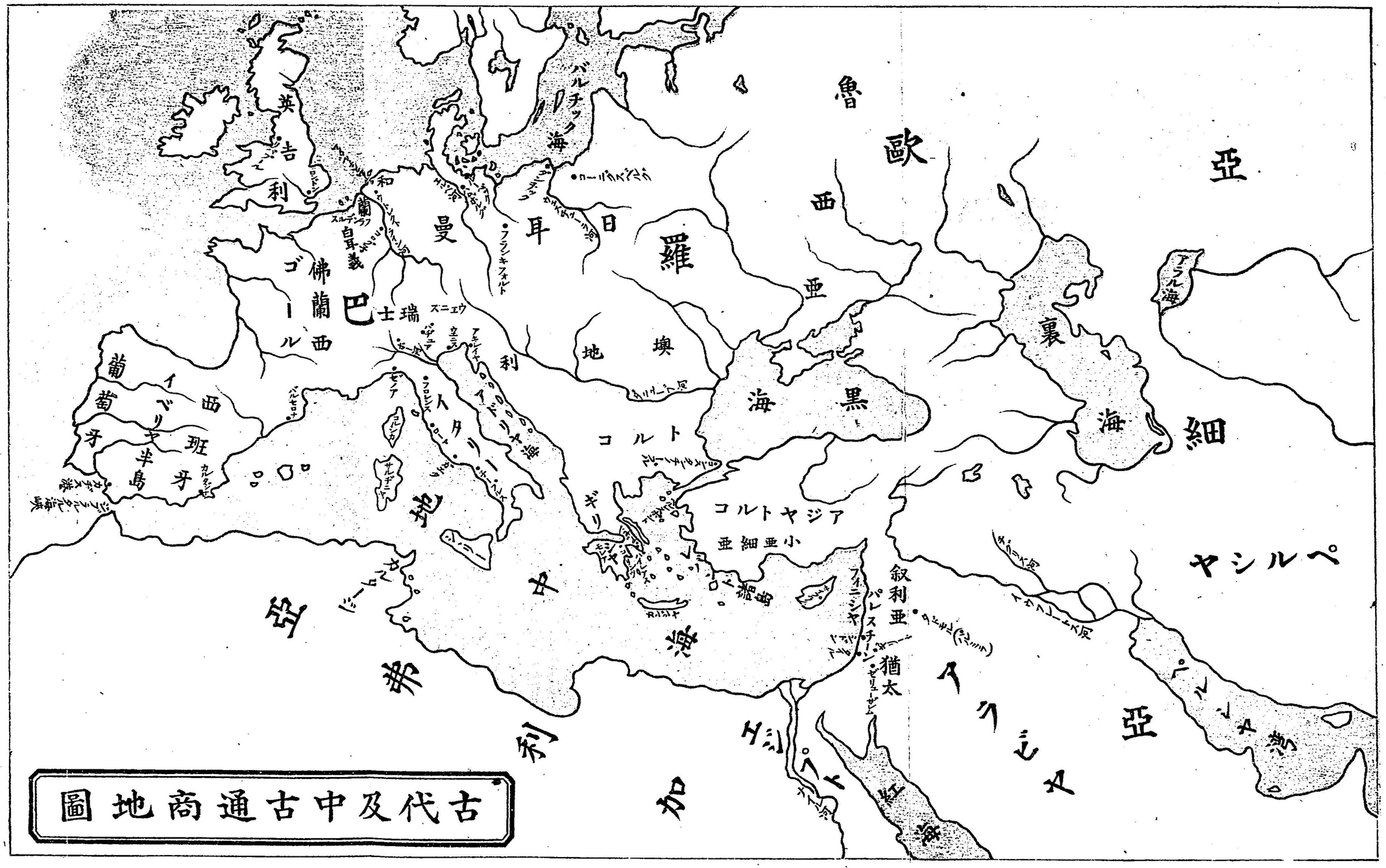
第貳回　猶太人の外國貿易。東洋の古大國四方人民に知られざりし原因。通商擴張に必要なる三件。……六

第三回　地中海の商權加爾達額人（カルタージ）の手に歸す。パルミラ府殘破の慘狀。通商を以て國本と爲したる威尼斯（ヴエニス）共和國。……十四

第四回　羅馬東西帝國滅亡後の騷亂。市邑自治制と同盟都府。伊太利に於ける技術文藝の發達。中世工藝の情態。……二十二

第五回　羅針盤の發明より起れる航海の大進歩。印度交通の新航路。亞米利加大陸の發見。新世界の占領及び殖民事業。南米に於ける西班牙藩領の金銀鑛。……二十七

第六回　歐洲貿易者の印度に於ける新利益。地理探究・製造・海運及び外國移住の運動。新世界殖民地利用の困難・航海術の進歩に伴へる海產物の增加。……三十一
第七回　保護稅法通商を妨害す。拿破崙（ナポレオン）戰爭後の歐洲諸國形勢。米國及び英國より初めて送出せる滊船の航海。英國輸出入價格の增加。……四十
第八回　ロバルト、ピール氏の自由貿易策。米・濠兩洲に於ける金鑛の發見。滊船・鐵道及び電信の三大發明。……四十八
第九回　滊船・滊車及び電信機の功用。外債と通商との關係。萬國通商の前途は任重く道遠し。……五十五
附　古代及中古通商地圖
　　近世通商地圖


英吉利
和蘭
白耳義
佛蘭西
ゴール
巴
瑞士
曼
耳
日
羅
魯
歐
西
亞
バルチック海
ローリバベ
フランキフォルト
ズニエウ
ベゲニア
立ニス
アモレイヤ
イドリヤ海
利
地
奥
亞
裏
海
黒
海
細
亞
アラル海
ヤシルペ
ポルトガル
西班牙
半島
イベリヤ
ジブラルタル
ベルセロナ
モナコ
フロレンス
ローム
ナポリ
サルデニヤ
シチリヤ
地中海
コルト
ギリシヤ
コルトヤジア
小亞細亞
西部
ドーロマカ
亞弗利加
埃及
ナイル河
紅海
叙利亞
フェニシヤ
パレスチン
ゼルーサレム
猶太
アラビヤ
亞
ペルシヤ湾

古代及中古通商地圖

萬國通商史

萬國通商の釋義。聖書中に載せたる通商上の記事。亞剌比亞人（アラビヤ）の外國貿易。非尼西亞人（フィニシヤ）の殖民事業。

太古蒙昧の時に當りては人々自ら耕し自ら織りて其衣食を給したるに過ぎざるも、人智漸くに進み社會已に立つに及んでや、之と同時に貨物交換法の行はるゝを見たり、而して貨物の數漸くに增加するや、之を交換するの法も亦隨て愈開け、穀物の如きは往々凶作の患を免れざるを以て豐穰の際之を貯蓄し其剩餘を以て他の日用品と交換するに到れり、貨物交換法の起源は大畧斯の如し、而して通商とは此法の範圍を一層更に擴張し之を萬國の間に及ぼしたる者たるに過きず、故に又之を稱して外國貿易とも謂ふ、此の萬國間に行はるゝ通商の起源及び

其發達の次第を述ふるは本篇の主意なりと雖も、紙頁限りあるを以て細かに古今萬國の史蹟に渉る能はず、唯其大要を摘み以て覽者參考の一助に供する耳、

蓋し貨物交換法の初めて世に興るや、之と相伴ふて分業法の行はるゝ事無んば、有る可らざるのみならず、互に往來すべき土地に於て其の天産物の開くる事無んは有る可らず、若し人類をして各處に索居し自ら勞作して以て其自用を辨ずるに過きさらしめは、素より通商の起る可き機なく、通商起らされは各人皆一方隅の天産物のみを仰き、假令不便を感する事あるも之に安んせさるを得さるならん、蓋分業法と貿易法との關係は之を譬ふるに猶健子の如し、時を同ふして產出する者にして此の一無けれは他の一有るを得さるなり、之を史乘に徵するに此の二者の初めは極めて單純なる胚胎の有樣より次第に發育して互に相

倚り相扶け、終に沙漠に於ては隊商の休憩に便なる可き要地を相し、又河海に於ては船舶の繫泊に適す可き良港を撰みて以て之に中央市場を開設し、賈人は常に之に集會し、技術家も亦足を之に駐むるの利益を感し、其の人口次第に蕃殖して漸くに都邑の觀を成し、更に一歩を進めて政府若くは帝國の首府と成りたる事は古今其の例に乏しからす、

外國通商に關する記事の最も舊き者は聖書中に存する希伯來國の事、蹟なりとす、彼の亞伯拉罕か商賈通用の銀四百「シェクル」を權衡して以弗崙の田地を買求たる、事の如きは即ち其の一例なり、此の取引に就て推考する時は土地を以て私有財產とする事、土地を賣買する事、採鑛冶金の術を研究する事、貿易の普通媒介物として純銀を使用する事、商賈なる一定の業を營む事、即ち分業法の已に當時に行はれたるや明かにして、通商交通の道は夙に進歩せしものたるを知るに足るならん、又聖書

の他章に約瑟(ジョセフ)か其諸兄の爲めに銀二十枚の代價にて以實馬利(イスマエル)人の一隊に賣渡されたる事を記したる處に、此の以實馬利人は駱駝に香料・乳香・沒藥を負はしめて、基列(ギリード)より埃及(エジプト)に往んとせし者なりとあるを見れは、埃及に於ては希伯來(ヒブリュー)共和國の設立以前より既に外國貿易の開け居たる事と察せらるゝなり、

然りと雖も聖書中に散見する此等の二三記事は未た以て十分の史蹟と爲す事を得す、我輩か古代に於て最初の外國貿易商人と看做して可なるは亞剌比亞(アラビヤ)南部の人民なりとす、彼等は常に其貨物と銀塊を盛りたる財布とを携帶し遠隔地方に往來して商業を營みたり、蓋し亞剌比亞の國たる南は紅海と尼羅(ナイル)河の右岸とに接し、東北は亞細亞洲中の人口最も稠密なる地方に隣したるのみならす、其民内地に在りては專ら遊牧を事として平素行走の勞苦に耐えたるが故に、其内の智あり略ある者の如きは自ら此種の冒險的事業を新に企圖するの氣力をも具へたり、唯彼等の營みたる通商の區域は左のみ廣からさりしのみ、然れ共彼等は實に外國貿易の開祖にして其近隣の一層更に富裕なる國民等に沙漠の得て踰ゆ可き者たる事を示敎したり、

又亞剌比亞人と相反して海上通商の道を開きたるは非尼西亞(フェニシヤ)人にして、彼等は夙に艙を具へたる小船を創作して常に海岸近邊に航走し、暴風の虞あるを察する時は直ちに最寄の港灣中に馳せ入り以て其の難を避くるの便法を案出したるが故に、彼等の埃及(エジプト)及ひ敘利亞(シリア)の間に渡航する事は他國人民よりも一層安全にして其費用も亦頗る少かりき、當時彼等の手に歸したる貨物は穀物象牙又は西亞細亞産の油類・絹布・染材及ひ香料にして、彼等は最初唯貨物の運送に從事したるに過きすと雖も、後には商人となり、亦製造者ともなりて、種々の業務に從事し、益

航海の術に長して巨大の船舶を造出し、之に帆を使用するの法を發明したり、左れはソロモン王の治世の際、彼等の船舶は遠く紅海に進航して此の王の爲めにオフィル（古代盛んに金を産出せし地にして、東印度の若くは馬來半島中の地ならんと云へり、）の金を齎し還りたる事ありと云へり、又彼等は地中海の海岸に沿ふて駛航し、希臘多島海中に散布せる諸島の上に殖民地を開きたりしか、其の中の最も大なる者は古來の通商都府又は帝國の中に在りて、殊に有名なりし加爾達額（カルタヂ）にして、此の殖民地は久しく地中海中の商權を掌握し、古今無比の繁榮を見たるも、後羅馬人の爲めに打滅されて其城郭人民殆んと全く烏有に歸せり、

第二回

猶太人の外國貿易。東洋の古大國西方人民に知られさりし原因。通商擴張に必要なる三件。

耶蘇降世前の時代に遡りて各國通商の有樣如何を稽ふるに、猶太人（ジュデヤ）は

曾て偉蹟を顯したる事なし、元來彼等の社會は神教及ひ農作を本として成立ちたる者なれは、其外國貿易たるや極めて振はさる者にして、唯東方に於ては亞剌比亞（アラビヤ）人と取引し、西南に於ては非尼西亞人と取引して、以て僅に其國用を辨したるに過きす、左れは希伯來（ヒブリユー）國盛時の舊記中に無量の金銀及ひ財寶を遠國より蒐集したる由を記する事あるも、是等の貨財は內國の物產若くは製造品を自由に貿易して得たる所の者に非すして其性質、戰爭の分捕品若くは屬國の獻貢物たるか如し、然れ共推羅（ヒニシヤ）及ひ西順（孰も非尼西亞人の建設せし都府なり）の諸商品は巴勒斯坦（パレスチーン）の街道を經過し來りて猶太の富榮を助けたるや必せり、ソロモン王が敘利亞（シリヤ）の沙漠中にタドモル府を創建せしは全く此の貿易の爲めに便なる一の驛站を置んとの主意に出てたる者ならん、此地は當初商人及ひ駱駝の休憩所たるに過きさりしと雖も、後にはパルミラと改稱して通商上又は施

政上の樞要都府となりたり、

猶太人か漸くに通商上の伎倆を顯して天下に普く其名を知らるゝに至りたるは、彼等か外寇の爲めに侵伐せられて其國都耶路撒冷（ヒエルサレム）を失ひ、終に世界各國の間に流浪するに至りたる後の事にして、是より以前には其通商事業たる已に上文に記載せし如く甚た低度の者たりき、猶太人よりは一層舊き國民たる埃及人も亦外國通商の率先者と看做す可き蹤跡を留めたる事なし、彼等は其の附近地方に飢饉ある毎に穀物を尼羅河邊に仰くを常としたるも、之を需要する者自ら其地に抵らされは用を辨する事能はさりき、是に於て乎非尼西亞人と希臘人とは前後相代りて埃及の穀物商と爲り、羅馬政府か數百年間埃及より巨額の穀物を徵求せし際、常に其事を取扱ひたり、

東方古國の民風及ひ經濟に就て我輩の舊記に徵し得る者斯の如きに

過きす、知る可し通商の氣運未た開けすして各國交渉の區域甚た狹隘なりし事を、印度及ひ之よりも更に大なる支那地方の事に至りては古來其國に幾千萬人民の棲息するありて、戰爭、革命及ひ社會の變遷、相踵て起り、國の富榮大に發達し、技藝文學また盛んに進歩して、內國商業は夙に廣く行はれたるにもせよ、廣漠無人の國境を踰えて外國通商を營む事絕えてなかりしかは、其の自餘諸國と全く關係なきものたる事は波斯（ペルシヤ）人か捨爾時（セルシス）斯王治世の盛時に於てすら地球上に支那の如き大帝國ある事を知らさるが如く、又歷山大（アレキサンドル）帝か巴斯を征畧して馬に印度河に飲ひたる時、已に全亞細亞洲の帝王と爲りたる者と妄想して、今や世界中復た征服すへき國なき耶と嘆きつゝ流涕したりと、世に言ひ傳ふる所を以ても亦之を知るを得可し、畧して之を言へは今日迄ても猶ほ存在して天下人衆の殆んと一半を含有する者と謂はるゝ東亞細亞の

古代文明國の事蹟に至りては、恰も之を以て他の世界に屬する者と看做したるか如く、舊史中絶えて之に論及する事なし、

元資の豐饒、業務の分擔及ひ財本の蓄積は外國通商の發達を見るに必要なる三件なりと雖も、此外にも亦必要の原素なきに非す、其中に就て最も重要なる者は第一に運送の便利、第二に勞働及ひ貿易の自由、第三に身躰及ひ貨物の保安、即是なり、然るに古代の世界に於ては此の三件一も完備する者なし、

長江大河は之に傍ふて人民の先つ住居を占め、以て帝國首府を開く所にして運送の便一に賴るが故に、古より國として之れを敬崇せさるは無く、又古昔の主治者と雖も其領地内に道路を開くの要務たるを知らさるに非す、彼等の開設したる道路にして初めは只政務上若くは軍事上の用に供したるに過きさるも、後には貿易上又は一般人民の便利と、

なりたる者亦尠しとせす、然れ共長江大河の面積悉く自在に通航し得可き者に非す、貿易の都合に因りては路を沙漠中に取らさるを得す、然る時は駱駝等の力を借るの外なきも、此等の運送法は進行極めて遲慢にして、之に要する費用亦甚た多き者なるか故に、其の運送して以て利益を見るを得べきものは小形にして高價なる物品のみにして、穀物の如きは至要の物品なりと雖も飢饉に際して其價非常に騰貴したる時に非らされは之を運送するも益なく、且つ斯る非常の場合に於て之を運送したりとて遠方より之を仰く事能はすして、其の分量の如きも亦只少數人民の糧食に供するに過きされは、其の不便實に勝て言ふ可らさる者ありたり、

擅制君主か軍事上の作業或は多少實益を主とし、若くは全く虛飾を旨としたる公共工事に古代人民を使役したるは之に利益を與へたる所

あるか如しと雖も、退て其實を察すれは個人的の自由を拘束し經濟學上の道理に依循す、可き勞働生産及ひ交易の權理を妨けたる者なるか故に、之を評して個人的及ひ社會的の氣力と通商上の資力とを增進するに必要なる方便の至要なる者を棄てゝ顧みさる者と謂はさる可らす、

通商なる者は之に從事する外國人民、必需品を供給する實ある所より古來何れの國に於ても幾分の愛顧及ひ自由を受けさる事なし、然れ共貿易上の運動は互に相倚賴する者なれは雙方の生産者と商人とをして自由に進退し其の需要する物品は自ら之を製出する方、利あるか又は交易して之を供給する方、利あるかを仔細に穿鑿するの便宜を有せしめさる可らす、此便宜ありて然る後に初めて商業の隆盛を期する事を得ん耳、然るに古代の政治は此の進歩に許多の障碍を與へたり、而して臣民一般の自由勤勞及ひ財産上に壓制の拘束を加へたれは、其の通商の擴張を妨けたる事、交通便路の杜塞したる害と殆んと異ならさりき、

外國貿易の益、繁榮に赴くは獨り保安條規の存するに因れり、若し生命財産の安全を期する能はすんは誰か復た他國に到りて營業せんや、然るに古代に於ては陸地に盜賊の横行し、河海に海賊の出沒する虞ありたるのみならす、交戰中には兵卒の爲めに刼掠せらるゝ恐ありて通商者往々害に遇ひたるも、政府に於て之を保護する事無かりけれは、外國通商の業を營む者は恰も兵隊の如く戒嚴して其仇敵を待たさるを得さるに至れり、加之各國共に其領地内に工商事業の未た問けさる際は外國より入り來る百貨に保護を加ふるの厚意なくして、其政署とした る所は苟も國境外に於て富み且榮ふる者あるを聞く時は兵力を以て

之を威服するか或は直ちに之を殘害するに在りたるを以て、通商者の遠地に往來する者一日も其心を安んする能はさりき、

第三回

地中海の商權加爾達額（カルダージ）人の手に歸す。パルミラ府殘破の慘狀。通商を以て國本と爲したる威尼斯（ヴェニス）共和國。

羅馬（ローマ）政府の鋭意勵精して伊太利（イタリー）の半開種族を統治せし際、加爾達額（カルダージ）は別に自ら一種の政策を執りて歐洲諸部の容易く到る可らさる處と頻りに通商したり、羅馬の勢力は其陸兵に在りたりしが、加爾達額の勢力は其船舶に存したり、而して羅馬の陸兵其力を逞ふする能はさる地方には加爾達額の船舶常に之に闖入し以て其地に據れり、而して其船舶は遂に日把拉太（ジブラルタル）の海峽を通過し太西洋に進出して加的士（カディス）港を開きたり、此外また加爾達額人は地中海中に在りて億卑里亞半島（是班牙及葡萄牙の舊名）（イベリヤ）の中にカルタジナ及ひベルセロナの兩府を開き、且つ羅馬陸兵と近く相望む處に在りて義盧（ゴール）佛蘭西の舊名中に商品貯蓄所を設くるに至れり、

堆羅（ダイル）非尼西亞人の都府の已に亡ふるや、加爾達額人は地中海中に雄視するの勢力を得て、曩きに其祖先たる非尼西亞（フィニシヤ）人か埃及希臘小亞細亞又は其殖民地たる細々里（シシリー）及ひ歐羅巴海岸諸地の民と共に取引したりし商業の餘餘を受繼き海上通商の權一に其手に歸したりしが、海軍に長する此の國民と陸軍に長する羅馬人との間には許多の點に於て利害を異にする所有りたるより、時に衝突を來す事なき能はすして、其結果は終に前後三回の「ピユーニツク」合戰となり、加爾達額は羅馬と海陸に力爭して互に勝敗有りたるも、原來通商より成立ちたる國にして其本業を外にし多年間、戰爭に從事したる事なれは、その國力終に疲弊して紀元前百四十六年に加爾達額は羅馬人の爲めに痛く打破れたり、而して周圍二十英里に亘れる大都府の昔は殆んと百萬に近き人口を有せし者も、

今は僅に數千の人民の殘壁頽牆の間に生存するを見るに至れり、之と同年に希臘の鉅府又良港と稱せられたる哥林多も亦羅馬人の爲めに略奪せられ、且つ兵燹に罹りたり、而して是れより六十年後に雅典幷に其良港たるパイレアスも亦羅馬の版圖に歸する事となりて、斯くの如く僅々數十年の間に大事變の陸續發起するや、其度毎に通商都府の人民は氣力阻喪し、其資財も亦或は多少剽掠せられ或は加爾達額の塲合に於けるか如く悉皆殘破せらるる事等ありて、通商の氣運も挫折し、羅馬の武斷政治の下には只僅に眼前必要の通商奄々たる氣息を有無の間に保つを見たるのみ、

巴勒斯坦の大港堆羅は歷山大帝の爲めに殘破せられしものなるも、敘利亞貿易の內地大市塲たるバルミラ府は雅典の羅馬人に略奪せられたる時より五十餘年を經て羅馬帝アウレリヤンの爲めに殘破せられて推羅よりも更に甚しき慘害を被れり、府街の外壁は悉皆毀壞せられて其の基礎をも留めず、住民は男女老幼を問はず郊外の農夫に至る迄も或は兵刃に罹り或は溝壑に轉し、女皇ゼノビヤの如きも亦捕はれて羅馬に送られたり、バルミラ府は數百年間通商交通の中心として東西隣國に利益を與へたる樞要の地なるか故に、此の府の滅亡は實に曩きに其の海港を失ひたる巴勒斯坦をして益〻貧困に陷り再ひ外國通商を見る事能はざる孤立の位地に立たしめたるのみならず、亦羅馬帝國をして亞細亞地方の版圖を維持し之より利益を收むるの策を施すに從前よりは困難更に多きを感せしむるに至りたるや明けし、されは之を評して羅馬帝國の將さに滅亡せんとするを明示する前兆の一と稱するも亦可なるならん、

伊太利國の頻年北狄の爲めに入寇せらるゝ時に當りて亞得亞海中に

一の通商都府の勃興せし事は古代の史乘中に於て殊に注目す可き者とす、元來威尼斯（ヴェニス）人は波河（ポー）の畔に在る膏腴の地を開墾して處々に都邑を建設し、パヂュアを以て其首府と爲したりしか、其俗古より耕作と貿易とを業として素より富厚の聞えありたるが故に、狄人の伊太利平野に入冦するや痛く之を剽掠せり、是に於て乎匈奴王アッチラ（アキレイヤ）の爲めに劫掠せられて驚駭措く所を知らさりし事に懲りて、新に命令を發し波河の入口に在る無數の洲島中にて最大なるリアルト島を修治し之に首府を建てゝ生命財産の保全を謀る可しと諭したりしか、其後狄人の屢〻入冦し屢〻剽掠する毎に富豪及勉强の人民等は相率ゐて洲島中に遁逃し、遂に第二威尼斯を建立して其繁榮は復に舊府の右に出つるに至れり、

新府の地勢は小舟に乘りて河を漕き下るに非らされは大地より達する事能はさる者なるが故に、操舟の術に習はさる狄人等之に入冦せんと欲する事あるも、老練の水夫等出てゝ之を邀へ容易に之を防く事を得たり、故に島内の移民等は伊太利の内地に於て兵亂甚しき時と雖も枕を高ふして安眠し、その舗店倉庫市場等一も剽掠に逢ふの恐れなかりけれは、進んて其力を海上事業に用ひたるに、捕魚採鹽は勿論、通商略地等の計畫何れも意の行くに行はれたるを以て、其攫取せし大利は曩きに久しく住み慣れたる土壤膏腴の内地都府にて失ひたる者を償ふに餘り有りたり、

威尼斯人は孔士坦丁（コンスタンチノープル）希臘（ギリシヤ）叙利亞（シリヤ）及ひ埃及（エジプト）と通商し、遂にモレア（カンヂア）及ひ其他のレバント諸島を占領せり威尼斯は印度とも通商したりと世に言ひ傳ふれ共左のみ盛大に營業せし者にはあらさるならん、然

れ共巴勒斯坦（パレスチーン）の「サラセン」人を征伐する爲めに起されたる第十二世紀及ひ第十三世紀の十字軍中には威尼斯の聲名、東西各國の間に著しく顯はれて、其の海軍幷に其の通商上の資力兩つなから大に增進するを見たり、夫れ斯の如く威尼斯の駸々乎日に益〻盛大に赴きて終に地中海の一大市場となり、昔時の加爾達額哥林多（カルタゴシコリンツ）及ひ雅典（アテン）と繁榮富庶を競ひ、而して伊太利及ひ西帝國の他部の騷亂漸く熄むの時に及んで、其の通商の範圍益〻擴張するに至りたる所以の者は、其の國、數百年間安全の位地に立ちて生齒蕃殖し、民力厚きを加へたるの致す所なりといふと雖も、其の國政宜きを得て百綱悉く張れるは實に其の主因と謂はさる可らす、威尼斯共和國の政史は細に之を讀む時は通商進歩の事情を知るに極めて益ある者なり、今其二三を示さんに、洲島中の最大なる者、即ち本府所在の島より其對岸に架設したる一橋は「リアルト」と號する有名の相場會所となりて其取引無比の繁榮を見るに至りたるのみならす、初めて國立銀行を興し、初めて爲替劵を發行し、初めて公債證書受授の制を定めたる事より、理財をして一の科學たらしめ、簿記をして一の技術たらしめたるは、皆威尼斯なり、然れ共伊太利に於て商業に深く意を用ひたるは威尼斯のみに非す、熱那亞（ゼノア）も亦彼に倣ふ所ありて其の繁榮權力大に增進しけるか、其の競爭は終に變して敵對となり、互に相讐視するに至れり、此の外那不勒（ナーポルス）・俄也他（ガエタ）・佛羅稜薩（フロレンス）等の諸府より帝國廢滅後已に久しきを經たる羅馬府に至る迄て孰れも皆威尼斯の成功盛んなるを見て、各々其の自治市邑の自由權を保ち且つ其の貿易・技術・航海等を改進せんか爲め力を用ひたる事淺からすと雖も、威尼斯は彼等に率先して勉むる所ありたるのみならす、又海上の權を握りたる故に通商上常に第一位を占めたり、

第四回

羅馬東西帝國滅亡後の騷亂。市邑自治制と同盟都府。が太利に於ける技術文藝の發達。中世工藝の情態。

羅馬帝國の顚覆するや、世態は一變して貿易の進路に深く影響を及ぼせる二樣の景象を現出したり、一は即ち文物及ひ工藝の淵叢として久しく世に仰はれたる古代諸都府の相踵て衰廢せし事、一は即ち歐洲中の氣力ある人種駸々乎として日に文化に向ひ競ふて事業を起せし事、是なり、

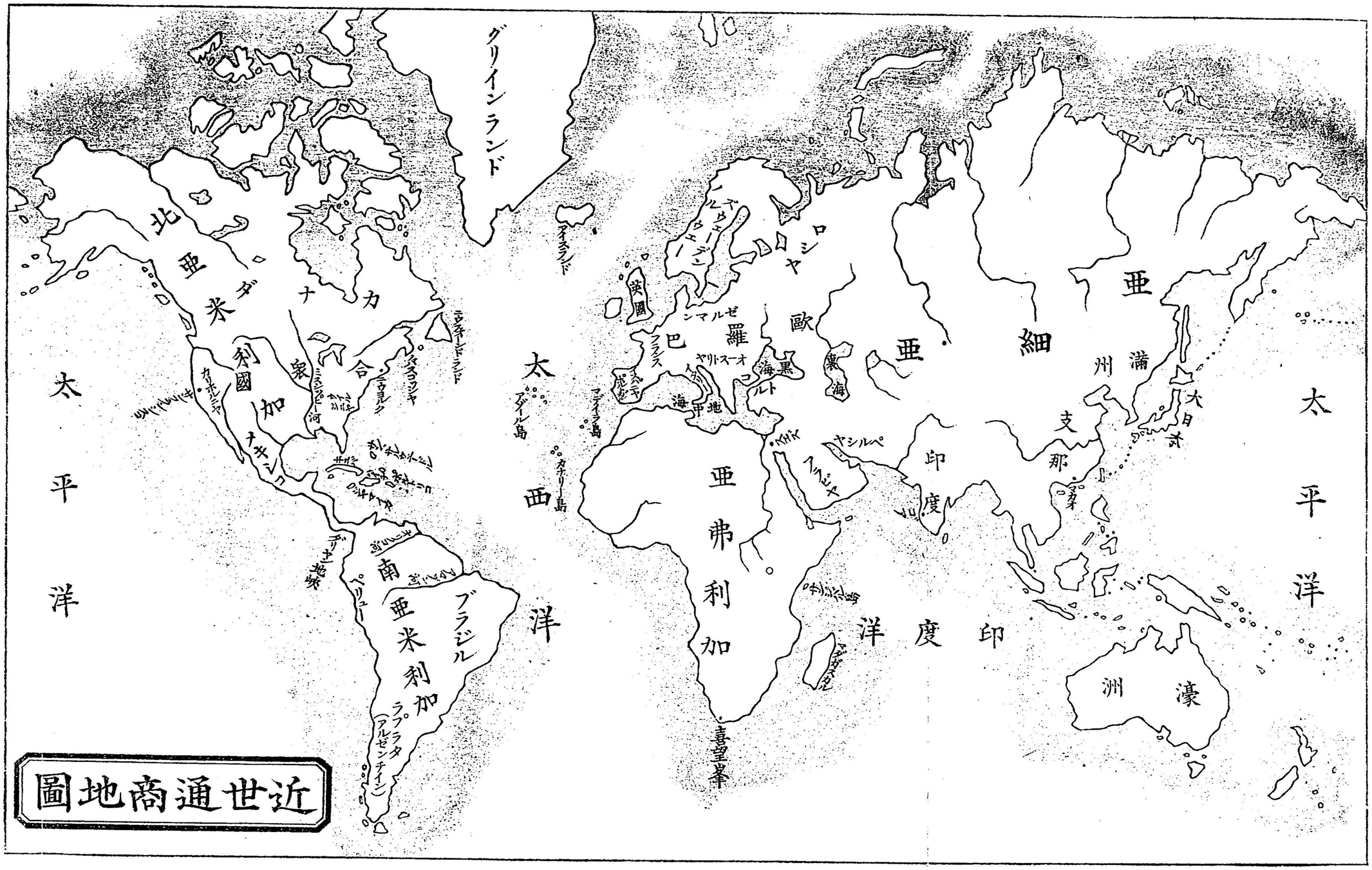
羅馬東帝國の滅亡は其の西帝國の滅亡の爲め通商上に及ぼしたる害をして轉〻深く浸染せしめたる者にして、當時「サラセン」人か小亞細亞(シ)・叙利亞(リヤ)・希臘(ギリシヤ)・埃及(エジプト)を初めとしてサイプラス幷に其他の地中海中に在る威(ベニ)尼斯(ス)の領地に侵入し、尙ほ長驅して西班牙(イスパニヤ)の富饒なる部分を畧取し、又たヘルレスポント(ダニエル)を横過して歐洲部の多惱(ダニエル)地方に進出し、之を蹂躙したるか如きは往時義特(ゴツ)・匈奴等の北狄か相踵て西帝國に寇したる時と侵入の方角こそ變はれ、其の歐洲に禍害を加へたる事は更に異ならざりき、知る可し上下千有餘年の間、白刃の光は煌々として恰も掣電の如く新舊通商都府の上に閃き渡りたる事を、

歐洲の封建制度は中世の氣運に照して之を考ふれは必要の者と謂はさる可らす、然れとも之を以て貿易上又は貿易の擴張に利益を與へたる者と爲すを得す、封制時代の商賈も亦古代の商賈と同樣に躬親ら生命財產の安全を謀らさるを得さる位地に立ちたり、而して此の目的を達せんとするには恰も封建侯伯の如く自治自衛に適する兵力を備へて都府中に楯籠り、以て敵の襲擊に備ふるの外なかりき、元來市邑自治制は羅馬の盛時に掬めて設けられたる者なりしか、今や此の制度は技術及ひ製造品を保護するに從前よりも一層更に必要の者たる事を認

むるに至れり、而して之を擴張せし一事は歐洲全部の文明を增進する主要の元素となりたり、初め諸都府は緩急互に相救ふの目的を以て同盟を立てたるに過きさるも、此同盟中より往々通商共和國の興るを見たり、千二百四十一年に創立したる「ハンシーチック、リーグ」(聯盟の義)の如きは波羅的海(メルチック)沿岸の諸國と北日耳曼(ゼルマン)に在る諸國の是より一二百年前迄ては各〻一隅に割據して野蠻固陋の俗を脫せさりし者をして互に盛大の通商を開かしめたり、此の同盟は易北河(エルベ)に通航の便宜を有する盧卑咯(ルーベック)及ひ旱堡(ハムボルク)より始まりて、終に八十五府の多きに達したるか、其内の大なる者を擧くれは南に安特坦(アムステルダム)・哥羅尼(コロンチ)及ひ佛郎克佛爾(フランキフオルト)有り、北にダンチック・コーニグスベルク等有りて、千三四百年に至りては其の商運益〻盛大に赴きたるか中にも荷蘭の諸都府は昔時の威尼斯(ヴエニス)の如く全海の利權を握り富强負に他邦の右に出てたるを以て、千五百七十九年烏德立(ウトレクト)の會盟に荷蘭は獨立共和國と認められ、其後久しく歐羅巴海上通商の中心と仰かれたり、

中世に於ける商業及ひ生産的技術の進步は廣く萬國通商に應する程の高度に達したる者にあらすと雖も、其の製造品の品質及ひ分布に至りては頗る觀るへき者あり、伊太利諸都府の如きは海軍及ひ通商の上に就て論すれは負に威尼斯(ヴエニス)及ひ熱那亞(ゼノア)の下に位せし者と雖も、その技術文藝等に至りては已に翹然傑出する所ありて、近世諸國之に感服せさるは無く、又英國にては未た何等の製造術をも發明せすして其の國産の貴重なる原料品を利用するの道すら知る者なく貨物を大陸より輸入しつゝありし時の二百年前より發蘭德斯(フランドル)人は其毛布及ひ麻布を販賣し、佛蘭西(フランス)人は其酒類絹布及ひ線繻を英國の繁昌なる都府に輸出したり、

何種の工作物を論せず其の品質に愈〻改良を加へて從前よりも一層手廣き販路を開かんと謀るの機會は何れの時に在るやと云ふに通商の氣運隆盛にして脆薄の物品も容易く賣捌け、其相場も騰貴して人々只管目前の利益にのみ着目する時よりも、通商の景況微しく沈靜して人々その資力に限りあるを知るより、目前の利益を謀らんよりは寧ろその腕前を磨く爲めに勞作し、且つ發明するに若かずと決心したる時に多きは古今普通の道理なるか、中世の如きは殊に著しく其の成績を見たるものと謂ふ可し、當時の情態を考ふるに歐羅巴未開の人民は嚴肅なる訓錬の下に立ちて百般の工業を研究したれは、手技と意匠との上に於ては已に多少の進歩を爲して、後世の爲めに不朽の基礎を建てたり、然れとも其の商賈等は深く城壁中に引籠りて常に甲兵を帶し、終始戰爭及ひ騷亂の爲めに苦められて普通の權利をだに伸ふる事能はさ


グリインランド
アイスランド
北亜米利加
合衆國
太平洋
西洋
英國
ロシヤ
ルウエー
スウエーデン
シマルゼ
巴羅
フランス
スペイン
ポルトガル
ヤリトスーオ
黒海
裏海
地中海
マデイラ島
カナリー島
アゾル島
亜弗利加
喜望峯
亜細亜
滿州
支那
大日本
印度
ヤシルペ
アラビヤ
印度洋
濠洲
南亜米利加
ブラジル
ラプラタ
(アルゼンチン)
ペルー
デリエ地峡
ニカラグア
ミシシピー河
ニウヨルク
ユタカリフオルニヤ
ニウフンドランド
ニウヨルク

近世通商地圖

りければ、廣く社會に勢力を及ぼす事の如きは勿論、其の最も直接の利益すらも猶ほ且つ獲る事能はさりき、殊に當時の貿易上に缺典と謂ふ可きものは之か擴張に必要なる自由權と隨意移轉權との缺けたる事にして、今日の如く此の二者の兼備する迄ては其の間許多の世故を經たり、

第五回

羅針盤の發明より起れる航海の大進歩。印度交通の新航路。亞米利加大陸の發見。新世界の占領及ひ殖民事業。南米に於ける西班牙藩領の金銀鑛。

第十四世紀の初めに當りて歐洲の諸港に羅盤の行はるゝに至りたるは萬國の通商上に一の新時限を開きたる者にして、當時伊太利・葡萄牙・佛蘭西・英吉利の諸國は皆爭ふて之を利用し、以て大に航海上の區域を廣めたり、千三百三十年には佛國の一船加拿利（カナリー）島を發見し、千四百十八

年には葡萄牙人之に殖民し、其後二年を經て彼等はまた馬德刺(マデーラ)島に上陸し、千四百三十一年には不魯日(ブラジス)(比利時國西發蘭德斯州の會城)の一船長亞索利(アゾール)島を發見し、千四百八十六年には葡萄牙人デーアス亞弗利加海岸に沿ふて航走するの際、覺えす此の大陸の南端に達したる事ありしか、其の後九年を經て同國人ウァスコデ、ガマは喜望峯を繞りて進航し、終に三西巴(ザンジバル)島に達し、之と凡そ同時代に葡萄牙の一旅客は蘇士(スエス)より陸路を經て印度に入れり、而して東洋大國の古來唯一口碑上にのみ其の殷富佳麗を言ひ傳へたる者も今はウァスコデガマの探究船が其の海岸を明白に望見し得る處迄て航進したる時を以て、歐羅巴諸國の間に愈〻實事と認めらるゝの場合に至りたるか、當時歐洲の形勢たるや人心將さに深睡中より醒覺せんとし、印書術は古代の文學及ひ聖經を四方に傳布せんとし、地理及ひ天文の兩學科は貿易及ひ文學の行はるゝ土地に於て專ら研究

せらるゝ際なりしを以て、前記の諸發見か如何に深く人心を感動せしやは今日想像の及ふ所に非すと雖も、其の實際上の成績は相繼て陸續起り來りたる事件に就て之を見るを得可し、本世紀の末に及んでコロムボスは三たひ太西洋を渡航し、サン、サルウェードルに立寄りて牙買加(ジャマイカ)波爾多黎古(ポルトリコ)及ひ太利俺地(タリヤン)峡を發見し、且南亞米利加の痾黎諾哥(オリノコ)河をも目擊したりしか、此際英國より派遣せられたるカボットは紐方蘭(ニウフオーンドランド)を發見し拉不臘多(ラブラダス)諸法斯哥西亞(コッシヤ)及ひ費爾治尼亞(ウィルジニヤ)に英國の旗章を樹て、方今加拿多(カナダス)として知られたる一大地方の有る事をも亦世人に知らしめたり、爾來航海者の發見は陸續各所に起れり、然れ共印度に達する航路の開通と亞米利加の發見とは其の功偉大にして、當時人の耳目を驚したる事、實に大なるにも拘はらす、之に相當の結果を見るは急速の事に非らさりき、葡萄牙人はウァスコ、デ、ガマの探究後數年を經て印度のゴアに初

めて歐羅巴の商行を開き、他の歐羅巴諸海國も亦之と相類する手續を施さゝりしに非す、然れ共英國が東印度商會を設立せしは千六百年にして、該商會か印度に初て商行を開きたるは是よりも十年乃至十一年後の事なり、之と等しく南北亞米利加を發見したる事と實際に其の土地を占領し之に殖民を置きて其の物産を交易し廣く之を世用に供せし事とは同時に行はれたる者に非す、自ら別々の事業に屬したり、西班牙はコロムボスの先蹤を追ふて古代文明の跡を留めたる墨西哥（メキシコ）及ひ秘魯（ペルー）の兩國を征服し、而して其金銀鑛を占有したりしが、當時歐羅巴に於ては各國共に金銀缺乏を告けたる際なりしを以て、南米の西班牙藩領は夙に無比の繁榮を見たるも、永く其の利益を享くる事能はさりき、他なし、金銀の供給漸く增加するや歐洲諸國の金銀相場は忽ち下落を來せしのみならす、是より一二百年を經て後、金銀の産出も亦他の物品の産出と同一理にして其の分量に限りある者なるか故に、强ひて多量を産出せしめんとする時は其の費用を增加せさるを得す、而して之を節減するの道は産出法に關する技術及學問の一層大に進歩するを賴むの外なきを發見したれはなり、簡單に之を說けは新に開けたる宏大の富源を利用せんとするに當りては、許多の難事をも冒し、許多の戰爭をも試み、許多の失策をも行はさるを得さりしなり、然れ共印度に達する航路已に開通し、熱帶及ひ其近傍の緯度中に位する富饒の大陸及ひ島嶼已に發見せられたる上は、通商の進路全く一變し、其區域大に廣まる可き時節の到來已に近きに在るを前見するに何の難事かあらんや、

第六回

歐洲貿易者の印度に於ける新利益・地理探究・製造・海運及ひ外國移住の運動。新世界殖民地利用の困難・航海術の進歩に伴へる海産物の增加。

喜望峰を經過して印度に達する新航路の開けたる一事は歐洲と東洋との通商に實益を與へたること限りなし、蓋し是より先きには歐洲商船の東洋と貿易する者地中海を通行するの際、其海岸に群集する摸爾人（ムーア）阿爾日耳人（アルジーリス）又は土耳其人（トルコ）の爲めに往々刼掠せらるゝ危難ありて、良しや幸に之を免かるゝも其の貨物は、地峽の沙漠中を經過し、若くは紅海及ひ亞剌比亞（アラビヤ）海に於て航海權を握れる亞剌比亞人の船舶に之を移載するの際、或は紛失し或は破損するの虞なきにしもあらさりければ歐羅巴と印度との貿易は殆んと有名無實の者と謂はれたるも、新航路已に開けて商船之に出つるに及んでや、波濤萬里往復素より艱難ならさるに非すと雖も、之を以て兇暴殘忍なる群盜の出沒横行する內海及ひ沙漠に比すれは却て安全なる所ありたり、簡單に之を說けは此の新航路は歐洲の貿易者をして實際に印度を目擊せしめ、其の物產は如何、其の需要は如何、又何等の方法を用ゐは双方に利益ある通商を營む事を得へきやを仔細に吟味せしめたる者なるが故に、爾來諸商船は此等の實地見聞に基きて相當の見込を立て歐洲諸港より出帆し喜望峯を經て其の目する所の場所に達する事を得たるも、從前の如く途中にて貨物を剽掠せられ又は之れを積替へるの煩勞及ひ憂虞なきを得たり、

印度に達する新航路の開通は歐洲人民の爲めに一の新世界を發見したる者にして、其の功績は南北亞米利加及ひ其の地峽島嶼を發見したると毫も異なる事なし、一は則ち古來久しく其名を聞き及ひたるも交通の便路を欠きたる人口稠密の東方世界にして、一は則ち幅員廣大人口稀疎なる荒漠地たるも天然の元資に富みて歐人の開拓事業を企つるに最も適したる者なれはなり、亞米利加は印度・支那・日本に比すれは

歐羅巴人の運動に抗したる事少し、然れ共貿易上に於て歐人の多く眼を着けたるは却て此の人口多き東方世界なりき、右兩新地の發見は同時に起りたる者にして世界の歷史上に是れ程大切の關係を有する者あらず、太西洋は則ち此等の兩新地と交通を爲す媒介の位地に立ちし者にして、其の波濤日夜西歐羅巴の諸海灣及ひ其海潮を通する諸大河中に奔注し止まさる所より、萬國通商の中心點も終に地勢上より一變せり、而して貿易の能く人事を左右する勢力は太西洋の海岸上に大埔頭をして陸續勃興せしめ以て之をして地理探究・製造・海運及ヒ外國移住等の新事業を間斷なく企圖せしめたる實績上に著しく現れたりき、

萬國通商の新路に向て先鞭を着せしは葡萄牙人にして彼等は千五百三十七年に於て已に支那政府より澳門（マカオ）を請ひ受け其の居留地を設けたるのみならず、尋て亞弗利加印度及ひ印度諸島の間に巡航し之と貿易を開きたり、西班牙は中央亞米利加と南亞米利加とに藩屬地を闢き、本土の人民を金銀鑛に使役して之より莫大の利益を收め、佛蘭西は東印度幷に西印度諸島と貿易を開き、初めて加拿多（カナダ）及ひ下密士士失必（ミスシッピー）に殖民地を設置し、荷蘭は千六百二十一年に紐育府（ニヨルク）を開き、而して英吉利は女皇以利沙伯（エリザベス）の時代に至り其の海軍及ひ通商上の權力大に增進するや、亞米利加に十三部の殖民地を開設し以て合衆國の基を建てたるのみならず、苟も世界の大勢を動す可き事に遇へは必す其の謀議に與り斡旋する所ありたり、

原來人事の局面は大抵戰爭の勝利に依りて一變せらる可きものなるも、外國通商及ひ新開拓の事業に於て成功を見んには海陸軍の勇氣の外に亦た他の技能をも兼ねさる可らす、今や許多の新國土の物產たる織物・染料・金屬・食用品及ひ化學用藥品等は現に充溢して歐洲製造の區

域を擴張したりと雖も、如何に之を貿易せは可なるや、又如何に之を製作せは以て大利を獲べきやを講する商賈的才能のみにては事足らず して、之を技術及ひ製造上に使用するに當りては工夫・手錬等の如き製造的技能の必要をも感したり、而してまた此等の事業は往々石炭若くは鐵の如き天然原料の多額を要する者なるか故に、多く之を所有せされは到底其の目的を達し難きを知るに至れり、

新世界の廣大なる地方には絶えて人烟なき處あり、或は土蕃の處々に散在する處ありたるも、其の性質たるや兇悍或は蠢愚にして工業等に使役す可らさる者なるか故に、土地の天産物を利用せんとするには歐洲人民自ら之に移住するに非らされは到底其目的を達する事能はさるを知れり、是に於て乎、諸國競ふて殖民地を開きたるも、之に移りし者の辛苦艱難は尋常の事に非らさりき、例へは地味沃饒にして氣候温和なる國あるも販路を見出し得へき物とては一も生する事なく、又甘蔗及ひ木綿の種子の如き産物は、本來之を生する地方より他の地方の或は之に適するならんと察せらるゝ者に之を移さゝるを得さる場合ありたるも、其の植付方に通せされは失敗の危險を冒さゝるゝを得さりき、此外又氣候炎熱の地に於ては歐洲人の勞働に服し得さるを見たるか故に、西班牙人は第十六世紀の初めより亞弗利加黑人を殖民地に輸送し、奴隷として之を使役する法を施したるか、次きに之を行ひたるは葡萄牙人にして、英人の如きは千五百六十一年に初めて之を西印度諸島に行ひ、爾後之をニウイングランド（北米州の一部にして合衆國の北東部に位するウエルモント、ニウハンプシーヤ、マッサッキュセッツ並にメーン、ロードアイランド及びコンヂクチカットの諸邦を總稱す、）及ひ南部の諸邦に推し廣め、前後幾んと三百年間巧に之を利用し、看て以て勤勞・財産及ひ商業利益の由て生する所の基本と爲したりしか、後來に至りて奴隷買賣の

業は天理人情に戻る者たる事を悟るや、終に之を全廢せり、

上文述ふる所は新に發見せられたる諸地を利用せんとするに際して遭遇したる許多の難事中に、就て僅に二三の例を掲けたるに過きすして、此の外にも亦通商の進路に横はりたる他の障碍の存するを見たり、元來通商は文明諸國の間に存する不朽不易の關係なりと雖も、國家の政畧如何に依りて伸縮消長する活力の一たるに過きされは、往々國務上の他の元素の爲めに壓倒せられて逡巡敢て進まさる事あり、彼の佛王路易第十四か無名無益の大軍を起し、その本國をして疲弊凋衰せしめ、又英王查理斯第一か巴力門と確執を生して內亂の爲めに、その國民の有爲活潑なる氣力を徒費せしめたる如きは、其の通商上に害を與へたる事多言を待たすして明かなるならん、

然りと雖も事變百出なる此の三百年間に世界は好く探究せられたりと謂ふ可し、新殖民地は各地の海岸に設けられたり、新大國は曠漠無人の原野或は僅に野蠻人民の散居せし土地に興りたり、舊邦の傲然自大他邦と絕えて交通せさりし者は通商の爲めに其の港を開くを許して世界の各部は孰れも互に通商上の交通を爲さゝるなきに至りたり、又航海術の進歩するに從て海產物の供給愈〻多く、人々舊ふて鯨魚・海豹・鰊魚・大口魚等の漁業に盡力する所より其の收獲は遂に貿易上の一大元資と看做さるゝに至れり、是に於て乎、各國輸出入品の量額及ひ之を取引する場所の數も、時に隨て增加するのみにして此等の實跡に依り考ふる時は、通商の業たる今日に至る迄て如何に繁忙且つ間斷なく人類の勞働及ひ注意を催し、以て古昔に知られざる生活上の幸福安寧を增進しつゝ有りたる者なる乎を知るに足るならん、

第七回

保護稅法通商を防害す。拿破崙（ナポレオン）戰爭後の歐洲諸國形勢。米國及ひ英國より初て送出せる汽船の航海。英國輸出入價格の增加

戰爭なる者は通商の爲めに甚た有害の者なりと雖も、往々通商上の利害よりは更に有力なる他の原因ありて起るを免れさる者たる事は前文に於て已に之を畧述したるか、戰爭の外に萬國通商の長足進歩を妨害する者は無學無知より生する意見より甚しきは無し、此等の謬見中にて最も注目す可き者は諸國各〻其の自國の工藝及ひ貿易を奬勵せんと欲する所より、平和の時に當りて彼此の工藝及ひ貿易の上に詐術多き力爭を試むる事是れなり、

外國の輸入品は勿論、內國の輸出品に至るまて之に相當の關稅を課して、國家歲入の幾分を助くるは固より當然の事にして、此の法の利便は各國の一般に之を採用する所を見ても亦十分に之を了知するを得可

し、且此の法たるや國の收稅法の精粗、財政の緩急、若くは歲入の事と關係なき他の事情の政略上に影響を及ほす多寡に從て常に大に變更せらる可きは固より論を俟たすと雖も、此法の施行に關して別に一種の說を立つる者あり、其主意たる俄に之を聞けは頗る理あるが如し、曰く工藝の或る科目には其技術及ひ方法未た十分に發達せすして外國の精良品と市場中に競爭する能はさる者あり、斯る事業は自力にて能く樹立する程度に達する迄て政府に於て之を保護するを以て策の得たる者となすと、此說一たひ世に行はれしより衆人の論する所左の如し、曰く各國の平素實見する所を以てするに、許多の物產中には自國にて之を製出し得るよりも外國にては一層精巧且廉價に之を製出し得る者あるに相違なし、左れは殆んと一切の外國輸入品に重稅を課し以て自國の工業を保護するは法の便なる者ならんと、然れ共此の說に從ふ

時は國家歳入の利益は政略の他點に於て失ふ所あるを免れさるなら
ん、何となるに保護税を課する事あれは國民の若干部は其需要する所
の物品を購求するに當りて曩きに此種の税法なき時外國人に拂ひた
る代金よりも更に多額の代金を他の若干部に拂はさるを得さる結果
を生す可きのみならす、又此種の法制を立つる時は國家歳入の源を養
ふよりも却て之を損ふに至るや必すれはなり、又一方より之を論すれ
は輸入品中には全く外國固有の物産にして内國工業と競爭す可き緣
故なき者あり、斯る物品に至ては海關にて之に課税し以て巨額の歳入
を收むるも國際貿易の自由及ひ公道を更に害する事なきならん、英國
にて茶・珈琲・烟草の上に課する税より莫大の海關税を收むる如きは通
商的或は經濟的の通理に毫も戻る事なく、海港に於て國家の歳入を取
立つる權力を明示する一例なりとす、

故に海關税則の問題は之を以て國家の歳入を收むるに永く適したる
方法と看做し、其の範圍内に在りて之を議する時は相當の釋解を下す
事を得へきも、若し此の範圍外に出つる時は謬見百出して其の歸する
所を知らさるに至るならん、保護税を課して外國貨物の輸入を抑へん
と欲する意見、内に存する時は勢ひ必らす我か國産の或る優待品を輸
出する者に賞金を與ふるに至る可きも、左する時は實際上同一の結果
を互に相見て己むに過きざるならん、如何となるに國民の一部は他の
一部の産出せし物品をして廉價に外國に販賣せしむる爲め其の價の
幾分を租税にて國庫に納めさるを得されはなり、また賞金を與ふる時
には之と相伴ふて關税返附の手數續々生し來るを免かれさるならん、
左する時は其の煩雜實に甚しくて政府は往々計の出つる所を知らさ
るに至る可し、例へは製造品には輸出賞金を與へ、輸入原料には保護税

を課する時、之を易言すれは外國産絨毛には税を課して、輸出せらる可き絨布には關税返附の利益を許す時に於けるか如し、此の矛盾説の條目煩雜なる事は、本國政府か一方に於ては其の藩領の通商を幇助し、他の一方に於ては之を壟斷せんか爲めに採用したる方法又は諸海國か海運事業に從事する自國の船舶を照顧せん爲めに設けたる詳細の免狀下附規則に至りて實に極れりと謂ふ可し、

保護及ひ禁止制度の諸害は一時戰爭の怒りに乘し發布したる英國の閣令幷に保那巴（ボナパルテ）の米蘭（ミラン）及ひ伯靈（ベルリン）の諭令に依りて明知することを得可し、此等の命令たるや獨り無益にして且つ嘲笑すべき者たるのみならす、其の目的と云ひ其の結果と云ひ總て通商事業を害する者たる事已に明かなるに於ては、之と相等しき目的を達せんが爲めに今日平和の時に當りて心思を費し以て各國互に相敵視する税則を設けんと謀る

如きは豈に誤見の甚しき者ならすや、通商に於て壟斷を私せんと欲する精神の如きは決して俄に消滅す可き者に非すと雖も許多の徵候に就て之を察すれは通商の進路に横はる此の障碍は他の諸障碍の如く漸く將に消滅せんとする望みまた無きにしも非す、

本世紀に及んで各國通商の關係は前代未聞の盛運に達せり、其の事實の如きは世人の熟知する所なるを以て、逐一之を絮述するの要なしと雖も、其の重要の現象を簡短に説示するは亦た無用の業にあらさるなら、偖て拿破崙戰爭後の歐洲諸國の形勢は如何なるものぞと云ふに、重債苛税及ひ通貨の紛雜に苦みたるのみならす、また莫大の軍費と勞力吸收の俄に弛みたる自然の結果として物價の下落を見たる爲に貿易の勢力は多年間大に挫折したり、然れ共通商の氣運は斯る形勢の間にも年々漸くに進歩し、生産力も亦た器械的の技術及ひ發明の發達に

從ひ大に增進したり、合衆國は次第に繁昌して一等通商國の地位に進め り、歐洲諸國の殖民地は愈〻區域を廣めて開墾の業を勵み、製造の爲めに各種の大市場を開くに至れり、千八百十九年に汽船は初めて紐育より開行し、立弗布立（リバプール）を指して太西洋を渡航し、千八百二十五年には英國にても亦た印度に向て之と同樣の航海を爲したり、此の擧たるや實に通商上に新時限を開くの先驅にして、此の際また經濟原理の研究專ら世に行はれたると、英國に於てハスキッソン氏の主張せし政畧の採用せられしとは貿易上に一層大なる自由を與へんと期する輿論の端緒を開き、又支那の如きは許多の往復談判を遂けたる末、終に外國と和親通商の條約を取結ぶ事となりたりしが、未た幾くならずして其の外國交際は非常に盛運に達せり、此等の諸原因は孰れも當時に在て通商の活動力を助けたる者なりと雖も、本世紀をして特に顯著ならしめたる大運動は重もに千八百四十年頃よりの實際成績に就て之を見るを得へし、爰に英國の一例を擧けて自餘諸國の概況を推測せしめんに、千八百三十九年に於ける英蘇（イングリシスコットランド）及ひ愛耳蘭（アイルランド）の物產若くは製造品にして外國に輸出したる者の總價格は五千三百二拾三萬三千五百八十磅にして、其の輸入品の總價格は六千二百四萬八千磅なり、然るに其の後三十三年を經て千八百七十三年の輸出總額は二億五千五百七萬三千三百三十六磅に達し、其の輸入總額は三億七千三拾八萬七百四拾二磅の巨額に達せり、見る可し、千八百七十三年の輸出總價格を千八百三十九年の分に比較すれは其の增加の度三十七割五分にして、又其輸入は四十九割六分の增加を示す事を、僅に百年の三分一に過きさる時間の事として考ふれは通商の進步豈に其れ大ならずや、經濟學士は千八百六十年以降の英國通商上に輸入價格の輸出價格に超過する事愈〻大なるを見て

繁昌なる外國通商の結果なりと謂へり、是れ或は然るならん、然れ共其輸入價格の輸出價格に超過する事年々壹億二千萬磅の多きに達する如きは、恐らく彼等の通常唱ふる所の原因に歸する能はさる者ならん、之を詳言すれは外國貨物の價値多き者と我貨物の價値少き者とを交換して之より生したる利益に歸する能はさる者にして、之を釋解するの道は近年英國か外國へ貸附けたる資本實に莫大なるか故に其の形を商品に變して國内に輸入せらるゝ者多きに居ると謂ふの外なきならん、

第八回

ロバルト、ピール氏の自由貿易策。米・濠兩洲に於ける金鑛の發見。滊船・鐵道及電信の三大發明

萬國貿易の近代に及んで此の如く盛大の氣運に達したる原因の何物たるやを指定して之を開示するは極めて緊要なる事なりとす、何となれは世人をして此の如き駿速且つ廣大の發達進歩を遂けしむるには諸種の方便の多年前より豫め準備せられたる者無んは有る可らさるのみならす、又許多の經濟的原因の湊合して互に相働き之に因て生したる結果遞次にまた原因となり、表面上より之を見る時は互に矛盾する如き觀なきに非すと雖も、實際上に於ては能く全局面の大勢を增進し、且つ之を保持したる者無くんは有る可らさるは勿論なれはなり、今一々之を列擧する能はすと雖も、爰に左の三大要件、即ち(第一)英國に於て自由貿易制度を布きたる事、(第二)加里福尼(カリホルニヤ)及ひ濠洲に於て金鑛を發見したる事、(第三)汽船・鐵道及ひ電信の世に行はれたる事を引きて、以て此時代の偉大なる現象を解釋するの助けと爲すは衆人の擧つて同意する所なるへし、

自由貿易主義は久しく經濟學上の問題たりしか、之を實際に施行して、

英國の政畧上に大變革を生したるは、サア、ロバルト、ピール氏なりとす、同氏の方案は約して之を言へは、次の四大目的を達するに在りたり、即ち第一は海關稅則中より外國輸入品の禁制條目を悉皆削除し、此等の條目中に掲けたる物品(其の重要なる者は農產牲畜なりき)には年限を立てゝ之に保護稅を課する事、第二は製造原料の性質を有する物、若くは左のみ緊要ならさるも技術上有用なる物の數百種に對して全く關稅を免除する事、第三は本國の製造品と競爭す可き外國製造品の關稅を輕減する事、而して第四は穀物條例を廢止して外國穀物と雖も之に輕き定稅を課して以て其の輸入を許す事是なり、此等の方案たるや表面上より之を觀れは本國の生產者には毫も利益を與へすして外國に對し多く退讓したる如き觀なきにしも非らさるを以て、反對主義の論者の如きは多年間烈しく之を攻擊したり、然れ共その終に好結果を呈するを見るに及んてや、曩きに之を非としたる者と雖も、翻然として其の說を改め貿易に自由を與ふる事は獨り外國元資の發達を助くるの功あるのみならす、また本國繁榮の由て生する所の一切財源をして大に舊與せしむる者たる事を悟るに至れり、此の方案を實施する初に在りては許多の輸入稅を廢止したる爲め、稅關の收入高を大に減する事あるならんと掛念したるも、今や却て之を增し、啻に英國の通商及ひ製造を振作したるのみならす、其の農業に迄も新勢力を與へたり、是に於て乎、自由貿易政畧は國民一般の稱贊する所となりて無比の勢力を得るに至れり、

近時北米加里福尼及ひ濠洲に於て發見せられたる金鑛の結果は昔時南米に於て發見せられたる銀鑛の結果と相比して並稱せらるゝ者なりと雖も、兎に角其間に一の差異あるなり、即ち近時の社會の情態は之

を以て第十六世紀及ひ第十七世紀の昔に比するに其活動力を加へたる事極めて大なるか故に、加里福尼及ひ濠洲の金鑛發見の結果は南米の場合に於けるよりも其の進歩の程度頗に迅速にして、之を評するには一代中に經過し、且つ採り盡されたる金鑛なりとの語を以てするも亦た可なるか如き狀ある事是れなり、事情此の如し、貴金屬の供給の一朝俄に增加したるも亦た怪むに足らざるならん、

右兩金鑛の發見は殆んと同時に起りたる者にして、其時期は萬國通商法の廣く天下に行はれてより十年後に當れり、而して之か爲めに世上に及ぼしたる最初の影響と云ふは金鑛所在の地方に無數の人民の移住せし事にして、之に次き起りたる影響と云ふは該地方に夥多の貨物を廻送する事なりしが、其の荷主等は餘り手廣く營業したる爲め投機商輩の往々免れさる如く終に莫大の損失を招きたり、出稼人等は我も

々々と先を爭ふて金鑛地方に赴きたりしか、其事業たるや利潤少き者にあらすして往々多量の金を採掘し以て其勞に酬ゆるを得たり、故に移住・貿易及ひ海運の繁昌は頗る久しく繼續したり、斯くて英佛銀行の金庫に供給せらるゝ金の量額益〻增加するや隨て銀行取引上の信用も增進し金融の道大に開けたるが故に、當時已に相應の盛運に達したる通商事業は益〻勢力を得て貨物の需用新に增加せしのみならす、勞働者輩の舊邦より新地に移つる者益〻多きを加へ、賃銀及ひ物價の兩者大に騰貴するを見たり、貴金屬の供給增加するのみにて、物價上に何等の影響を及ぼす可きやを査出するは精明の眼識を具へたる者と雖も尙且以て難しとする所にして、貿易工業の區域極めて廣く從て取引上の事柄頻繁複雜なる時世に在ては殊に然りとするなり、何となるに斯る際には貴金屬の市場に吸收せらるゝ事一層急劇にして物價上に變動を

及ぼす所の原因頗る多く、貴金屬の供給增加の如きは固より其の一に居ると雖も、之を以て他物に比する時は其の力極めて微なれはなり、加里福尼及ひ濠洲の金鑛は金の產出高從前に比すれは大に減少したりと雖も、尙ほ依然としてその產出力を失ふ事なし、而して右兩金鑛の通商上に及ぼしたる影響の永く世に存する者は加里福尼をして人口稠密の一大邦たらしめ、又濠洲の植民地をして駸々乎日に益〻隆盛の氣運に向ふ一大國たらしむるに與りて、實に力ありたる事たるならん、現今加里福尼邦の世界至大の穀庫と仰かれ、又濠洲植民地に於ける外國貿易の盛んに行はれて其の金鑛發見後の初十年間の景況と金の產出高減少後の次十年間の景況と更に異なる事なく繼續繁昌する如きは金鑛の力に非らすしてまた何そや、夫れ斯の如く英國の自由貿易策と加里福尼及ひ濠洲の金鑛發見との百般事物を刺衝せし力は重大のものなりしと雖も、此等の二件は次に記する三大器械の發明に逢ふて其の光輝を失ひたる者の如し、

第九回

汽船・汽車及ひ電信機の功用。外債と通商との關係。萬國通商の前途は任重く道遠し。

汽船・汽車及ひ電信機の事に關しては茲に多辯を費すの要なし、只〻其の通商に便を供したる至大の功用と此の目的を達せんため各國の相競ふて至急に之を製造したる狀況とを畧說せは足れるならん、

千八百三十九年に於ては世界に存する海航汽船の員數僅に指を屈して數ふるに過きさりしも、今や英國のみにても平均噸數殆んと一千噸の汽船一千五百九十七艘を有し、專ら之を外國通商の用に供せり、强大の海國に至りては孰れも海航船の線路を開きて世界中如何なる僻壤遐陬なりとも汽船を以て運搬の用を達せさるは無し、又汽力を藉りて

陸上に運輸を爲すの法は千八百二十五年ジョージ、ステフェンソン氏か英國に於て短線鐵道を創設せし以來初めて世人の知る所となりし者なるか、今や英國に於ては長さ一萬七千英里に及へる鐵道ありて其の便利と速力とを賴み安穩且つ迅速に貨物及ひ旅客を運送するなり、他の文明諸國に在りても亦た之に倣ふて鐵道工事を起して數千英里の曠遠地方迄ても線路を延長するに至れり、然れとも電信機の迅速に發達せし事に至りては我輩をして驚嘆せしむる事殆んど汽船汽車の比に非す、其の學理的技術的及ひ製造的の難問題を解くには許多の試驗を行ひ之を實地に施すには莫大の費用を要したるも、最初には爲めに資本を供する者少き等種々の難事ありたるに拘らす、電信線は終に能く太西洋太平洋及ひ東方諸海中に布設せられて、今や通商世界中には數時間にし消息を通し得さる所殆んと一も有る事なし、學問上より汽力

電氣の二者を利用して或は之を運輸の用に供し或は之を通信の用に供するに至りたるは貿易上實に莫大の便宜を與へたる者にして、其の各國內部の經濟上に利益を及ほしたる功は彼等の爲めに其の產出物を外國に分配するの便を助けたる功と實に相等き者なりき、汽船汽車及ひ電信機の工事は僅に五十年以內に現はれたる者に過きすと雖も之を仕遂くる爲めには已に幾百億萬の資を費せり、此の問題たるや何れの點より之を思考するも不可思議の一事と謂はさるを得す、何となるに學問技術及ひ勞力は能く是等の大事業をして成就せしむるに堪えたる者とするも、之を成就する爲めに必要なる費財は何處より得たる者なり乎との疑問起る可けれはなり、蓋し汽船鐵道及ひ電信機の三者は通商の發興力と其の資本とに依りて初めて世に立ち、又常に之を翼贊助成して以て自ら扶持し、自ら擴大し得る者と稱して可なるなら

ん、

英國財主より外國に貸附けたる資本の事は之よりも更に人目に觸れ易き輸出入品の事の如くに精細の研究を遂くる者なく往々輕忽に之を看過する者ありと雖も、今や其の額拾億萬乃至拾五億萬の巨額に達したるを考ふる時は、直接に之に關係ある貸借者は、勿論、外國通商に從事する者は深く之に注意せさる可らす、資本は通貨の形にて受授せらるゝ時は貿易上の尋常物品と相異なる事なし、若し甲の一國鉅額の資本を乙の一國に貸附くる時は、負債國にて右金額に抵る貨物を輸出したる時と同一の變動を一時は爲換相場の上に生し而して期限遷延する時には輸出入の概況上に生するなる可し、負債國の輸入は其の借入れたる金を使用する間は增すなる可し、而して其の輸出は假令減少せさるにもせよ、幾分か其の輸入に對する從前の比例を失ふ所あるべし

此等の變動は通商事務の取扱上固より注意せすんはある可らさる者なるが、此の外にも猶ほ記臆せすんは有る可らさる事あるなり、夫れ利息の割合の將來更に上らん事を見込むか、或は幾分の投機的冒險精神を以て甲の國より乙の國に自由貸附を爲すは固より至當の事にして此の方法あるに因り宇内の富國は能く貧國の發達を助け、併せて其の本國の繁榮を增進するの便を有し、而して斯の如き契約より成れる負債券終に讓渡自在なる安固確實の抵當物と成る時は一時狂ひたる爲換相場を平均するに緊要の原素となる者なりと雖も、然れ共本件の取扱方には殆んと信す可らさる如き不取締の沙汰なきに非す、近時外債調査委員の手に成りたる報告の如きは其の内幕の事情如何を明にするに足る可き者にして、右報告中に記する所に依りて之を觀れは銀行或は躰面ある某理財家が市場に於て貸附金の募集を爲す時に當りて

之を貸附くる所以の目的、即ち抵當物の性質に深く注意する事なく、或は其の貸附金が需要材料の價値上に何等の變動を生する事ある可きやを豫め判斷するの商法的鑒裁力を毫も具ふる事なく、唯自身等の爲めに目前の巨利を占めん事にのみ着目し、動もすれは詐僞手段を用ひて以て全体上の責任及ひ危險を慨然なる世上の出金者に歸せんと謀るか如き事ある間は最も痛ましき結果の生する事あるを免れさるならん、千八百六十九年乃至七十二年の間に此の如き方法を以て着手せられたる鐵道及ひ其他の企業の如きは極めて不都合なる者にして、之を仕遂くる爲めに必要なる材料を得んとするには其價格に非常の騰貴を見るに非されは天下の市場に於て之を見出す事能はす、若し斯る相場にも拘らす是非とも之を得んと謀る時は啻に企業其物をして望みなき者たらしむるのみならす、尚又許多の己に能く立定したる營業を

して大に損害を被らしむるの恐れある者なりき、又之と事變り左迄、不繁昌ならさる國の抵當物を押へて以て契約する外債の如きは頗る確實の者なるも、其國の歳入たるや殆んと全く海關稅の收入より成るに過きさる事往々之れ有り、斯る場合に於ては外債融通の行はるゝ間は其の國の輸入增加して其の歳入繁昌すべけれは債主等は之を見て堅固なる保證物を取りたる如く思ふ可しと雖も、其の借入金を費して元利償却の責を盡さるゝを得さる場合に臨む時は國の輸入高俄に減して債主等が最初、金を貸附くる時に抵當物として押へたる所の歳入は消滅し去り、之か爲めに雙方の國をして商業上の大困阨を惹起さしめ或る場合に於ては之をして政治上の爭亂に陷らしめたる事なきに非す、外國貸附金の事は今茲に詳論する能はすと雖も、其の通商上に關係尠からさる者たる事は上文載する所の事にて十分に了知せらるゝな

らん、

今や本史の局を結んとするに臨んで爰に一言せん、萬國通商は之に至要の條件に於て古來未曾有の安固及ひ擴張を得たりと謂ふも可なるならんと、古史に載する所の萬國通商の事蹟を考ふるに、其の取引の場所たる更に定まらすして、或は此の徑路より彼の徑路に彷徨し、或は甲の僻地より乙の僻地に移轉する事常なりしも、今日の如きは世界の各隅に於て通商の位置、堅固に立定したるのみならす、一切の洋海及ひ道路之か爲めに開通して各國人民均しく其の利に依るの氣運に達したるか故に、古昔の如く其の營業地の處々に變換する如き弊は決して再ひ起る事なかる可く、苟も人民・勤勞・元資・技術及ひ熟練の存する所には萬國通商の常に行はるゝ事あるべし、通商には許多の中心ある可けれは甲乙互に盛衰あるを免れさる可し、然れ共古代の殷富國が一朝俄に滅亡して其痕跡だも留めさるに至りたる如き激變は今日、世に存する所の文化・道理・法律及ひ利衆主義に全く背反する如き意外の兵亂・暴舉若くは騷擾の發起する事あるに非れは再ひ之を見る事なかる可し、然れ共此等の利便あるを以て通商の前途に障害なしと謂ふを得す、今日通商の廣大なるは即ち是れその當路者の任をして愈〻重からしむる者と知らさる可らす、古代に於ても外國通商者は啻〻老練の事務家たるのみならす、また政事家たらさる可らすと考へられたる所を以て察すれは、今日の如く輸出入品は五百萬乃至千萬の代りに何億を以て數へられ、市場は益〻廣大且つ多數にして、競爭は益〻烈しく、取引上の各件に關する問題の釋解せらる可き者は難きに難きを加へ、管理す可き事務の區域は際限なく廣まりたる時に當りて、事を執り能く其の任に堪えんとするには其人の拔群なる才能を備へすんは有る可らざるは言を俟た

すして明かなるならん、今日世界の通商權を執る所の者は專賣特權を有して以て是非の沙汰に及はす、我か欲する所の事を隨意に處する如き商人の會社には非すして、世界の各部に散處する不羈自由の商人の之と相等しく不羈自由の權を有する製造者若くは生產者と相結んて事を執る大衆なりとす、而して其の營利事業に從事するや各〻其の私欲を逞ふせんと欲する傾きなきに非すと雖も、之を防くの方法は公衆に普通の見聞と經濟學との力を賴み以て自全の計を爲すの外また良法なしと知らさる可らす、本史の主とする所は古代より今日に至る迄ての萬國通商及ひ之に附隨する輔助件の上に生したる進步發達の概況を示すに在りたり、看よ、海陸の運送は如何に便利に、四方の通信は如何に迅速に、商法上の法律及ひ安寧は如何に遍く行はるゝ事となりて、世界は自由の一大通商場と成りたるやを、然れ共何種の商法たるを問はす之を營みて成功を見んと欲せは其の大理は勿論細則に至る迄ても一々之を知悉し、之に加ふるに正直の行爲を以てせされは不可なり、商法家の任や亦た重しと謂ふ可し、勉めさる可けんや、

萬國通商史

大尾

明治二十八年四月一日印刷
明治二十八年四月五日發行

定價金八錢

發行者　東京市京橋區彌左衛門町七番地
合名會社經濟雜誌社

東京市麻布區麻布我善坊町十九番地
望月二郎

右代表者社員

印刷者　東京市京橋區西紺屋町廿六七番地
秀英舍々員
山本鐵次郎

印刷所　東京市京橋區西紺屋町廿六七番地
株式會社秀英舍

發行所　東京市京橋區彌左衛門町七番地
合名會社經濟雜誌社

版權所有

國運商史與付

賣捌書肆

東京市日本橋區通一丁目　大倉書店　大阪南久寶寺町四丁目　前川善兵衛
同　通二丁目　小林新兵衛　同　北久寶寺町四丁目　丸善書店
同　通三丁目　丸善書店　同　同　同　三木佐助
同　下槇町　群書城　同　心齋橋筋一丁目　松村九兵衛
同　神田區表神保町　東京堂　同　安堂寺橋通南入　嵩山堂
同　同　中西屋　横濱辨天通四丁目　丸善書店
同　同　敬業社　神戸元町五丁目　吉岡平助
同　京橋區鎗屋町　巖々堂　名古屋本町　川瀨代助
同　本郷區伊豆倉横町　磊々堂　同　玉屋町　片野東四郎
京都佛光寺通東洞院西入　東枝吉兵衛　仙臺國分町四丁目　伊勢安書店
同河原町二條下ル二丁目　大黒屋　越後長岡町　目黒十郎
大阪備後町四丁目　吉岡平助　同　水原町　西村六平
同　同　梅原龜七　松山湊町三丁目　向井藏次郎
同　本町四丁目　岡島眞七　熊本新町二丁目　長崎次郎

賣捌書肆

東京市日本橋區通一丁目　大倉書店　大阪南久寶寺町四丁目　前川善兵衛
同　通二丁目　小林新兵衛　同　北久寶寺町四丁目　丸善書店
同　通三丁目　丸善書店　同　同　同　三木佐助
同　下横町　群書城　同　心齋橋筋一丁目　松村九兵衛
神田區表神保町　東京堂　同　安堂寺橋通南入　嵩山堂
同　同　中西屋　横濱辨天通四丁目　丸善書店
同　裏神保町　敬業社　神戸元町五丁目　吉岡平助
京橋區鎗屋町　嚴々堂　名古屋本町　川瀨代助
本郷區伊豆倉横町　磊々堂　同　玉屋町　片野東四郎
京都佛光寺通東洞院西入　東枝吉兵衛　仙臺國分町四丁目　伊勢安書店
同河原町二條下ル二丁目　大黑屋　越後長岡町　目黑十郎
大阪備後町四丁目　吉岡平助　同　水原町　西村六平
同　同　梅原龜七　松山湊町三丁目　向井藏次郎
同　本町四丁目　岡島眞七　熊本新町二丁目　長崎次郎

合名會社 經濟雜誌社發兌書目廣告

●故文學博士中村正直先生序●經濟雜誌社編輯

日本社會事彙

大本全二冊　定價金拾六圓

此書は國初より明治の今日まで政治、制度、法律、理財、商業、工藝、風俗等、百般の沿革を統記し題字を五十音の今日に存するもの大約之を分ち索引を便ならしめ且つ圖畫の今日に存するものを挿入せも國家無二の寶典なり

●田口卯吉君序●經濟雜誌社譯・著

西泰政事類典　再版

中本全五冊　定價金八圓

右は原名「ポリチカル、サイクロペディア」と題し英國ヘンリー、チャ、ボーン氏の編纂に成るものにして行政、經濟、財務、商業、法律等より交際上の諸項に至るまで上、羅馬、希臘の往昔に溯り下、今日の現狀を審かにし原委沿革を歷叙し政治の事項殆んと網羅して遺す所なき良書なり

（一）

●田口卯吉君著●中根淑先生跋

日本開化小史

全六冊　定價金七拾五錢　郵送料金八錢

右は日本開闢の始より戊辰の變に至る迄政治上社會上及人心上に顯はれたる事件を記載したるものなり

●金谷昭君譯●小池靖一君跋

古代商業史

全一冊　定價金四拾錢　郵送料金八錢

右は英國セームス、ウ井リアム、キルバート氏が愛蘭蘭地方銀行の「オーターフオルド」支店の支配人たりし時「オーターフオルド」の文學會に臨みて講述せし者にして古代、埃及、希臘、タイル、カルセーヅ及び羅馬の商業を詳述せる書なり

●會計檢査院部長大野直輔君序●帝國大學卒業杉中利平次君著

政富要論

全一冊　定價金貳拾錢　郵送料金貳錢

右は經濟の術、貯財の要法を論ずると適切に、我國民の貯財に乏しきと歐米の富有なるとの原因を對照する事詳細に貧窮の弊源を排し獨立致富の因緣手段を指示すると簡明にして切實なる書也

●文部省檢定濟尋常師範學校及び尋常中學校教科用書●島田三郎、小池靖一、末廣重恭三君批評●田口卯吉君著

再版　支那開化小史

全一冊　定價金七拾錢　郵稅金拾錢

此書は支那本部全圖、七國地境圖、漢楚の形勢圖、及び三國分割之形勢圖、等を挿入し支那開闢より明末に至るまで社會大勢の變遷を記し治亂興敗の原因結果を序述せしものなり

●肥塚龍君序●田口卯吉君著

日本之意匠及情交

全一冊　定價金拾錢　郵送料金貳錢

（士多社會改良論）

此書は今日の演劇、音曲、文章、工業、風俗及び情交に於て改良せざる可らざる所あるとを述べたるものなり

●故石川暎作君述

米伊紙幣交換始末

全一冊　定價金三錢　郵稅金貳錢

此書は米伊兩國が紙幣を增發せしより兌換を行ひたる後迄二國に發せし經濟の現象を詳記せる者也

●德富猪一郎君著●諸大家序跋

五版 將來之日本

全一冊　定價金四拾錢　郵送料金六錢

本書は我邦の將來は軍隊組織の境遇を一變して生産的の境遇となし貴族社會を一變して平和的の運動となさゝるべからざるの道理を平民社會となし暴動的の運動を一變して平和的の運動となさゝるべからざるの道理を說明し新日本の眞面目を描出したるものにして第十九世紀新日本の治安策と云て可なるべき書なり

●米國哲學博士ラルヂッド君述●同志社教授浮田和民君譯

三版 經濟學之原理

全一冊　定價金五拾錢　郵送料金八錢

此書の著者ラルヂッド氏は米國エール大學故總長ウルゼーの高弟にして十四年間京都同志社に於て經濟學を教授せらるゝ學士なり氏の經濟學上に於ける意見は正に是れ舊派にも偏せず新派にも解せず公平中正の主義を取るものにして此書は特に日本學生の爲に著述せられ其刻畫する所の事實專ら日本の實例に係るものなれば我邦に於て經濟學を學ばんとする者には最も便益なるものとす

●田口卯吉君序●片山平三郎君譯

實氏經濟夜話

全一冊　定價金拾五錢　郵送料四錢

有は米國有名の經濟學者ウオーセット氏の夫人が童裝婦女に解し易き樣繪畫を入れて朝比奈巡島訳の如き面白き島物語を以て自由貿易主義なる經濟の大意を解きたる書也

●犬島貞益君譯

日英斯著 三版 貨幣說

全一冊　定價金四拾錢　郵稅金六錢

本書の論ずる所は貨幣の起原及び其沿革、歐洲諸國の幣制、單複本位の爭等より紙幣の必要、其發行の諸準備法、銀行手形の原理、紙幣手形の濫發より來る恐慌の救正法等に至り貨幣の疑問に於て細大遺す所なき良書なり

●英國博士ケインズ著●伐直之助君譯●田口卯吉君校閲●故文學博士中村正直君及會計檢査院部長大野直輔君序●文學士濱田健次郎君跋

訂正再版 經濟要義

全一冊　定價金四拾錢　郵稅金八錢

ハーコットの評に曰く該書は經濟學の用る推論法の種類を說き又經濟學が物理學と心理學とに對して有する關係を論ずるに於ては全く先人の所說に優れり」と、以て此書の價値を知るべし

●伴直之助君序●田口卯吉君著

續經濟策

上製本 定價七拾錢 郵稅拾貳錢 並製本 定價五拾錢 郵稅金八錢

右は現時日本の財政、銀行、商業及び其他の制度に關し主義の誤まれるを駁し且改良の方法を述べたるものにして既に其論旨の行はれたるもの極めて多き書なり

●法學士持地六三郎君譯述●乘竹孝太郎君跋

經濟學評論

全一冊 定價金拾五錢 郵送料金貳錢

右は米國エドワード、クラーク、ラント氏の著にして現時經濟學が世人の不信用を蒙ひ多狀態より說き起し其原因を說明し舊學派の非法を零述し次に新學派の論旨を逐次査察し終に現今經濟學者は研究方法の論爭を止めて專ら目下切迫する幾多經濟界の實際問題の解釋に從事すべしと論決せるものなり

●田口卯吉君著

再版 史海日本之部 第一

全一冊 定價三拾錢 郵稅金四錢

此書は史海第一卷より第九卷までに掲載せし日本の部を編纂したるものなり

●田口卯吉君著

新版 史海日本之部 第二

全一冊 定價金五拾錢 郵送料金八錢

此書は史海第十卷より第廿七卷までに掲載せし日本の部を編纂したるものなり

●小池靖一君譯述●杉中利平次君筆記

再版 英國金融事情

全一冊 定價金三十錢 郵送料金四錢

右は原名「ロンバート、ストリート」と題し倫敦經濟雜誌記者故ウォルトル、ベイゴット氏が「ロンバート」街の實況に就き英國金融の事情を群述し英國銀行仕組の脆弱なる點を指摘して之を痛論し自家の考案を述べて之を救治するの策を立つるものにして議論痛快事理明瞭頗る世の耳目を博したる書也

●田口卯吉君序●乘竹孝太郎君纂譯

實用 本位 貨幣論集

全一冊 定價金卅五錢 郵送料金八錢

此書は單本位論、複本位の得失に關し貨幣學に最も著名なる歐米諸大家の論說を纂譯せる者にして讀者若し此書に就て研究する所あらば此大問題を講究するに於て大補あらん

●故綿軒植田榮君著

日本森林小言

全一冊　定價金三錢　郵稅金二錢

此書は森林の租生産、氣候、流水、地質に及ぼす影響大なる所以を說き次に我邦林政の變遷を述べ終に之を救ふの策を概論せしものなり

●英國マクレオッド原著●金谷昭君譯述

銀行哲理論

全一冊　定價金七拾五錢　郵稅金拾貳錢

此書は銀行學、用語、釋義、價格、錢貨、信約、銀行の原理、爲換、銀行業務等を哲理に基き實際に徵して簡約に而かも明晰に論述せしものにして銀行學を研究するには最も適切なる者也

●松本邁君譯述

銀行事務法例

全一冊　定價金廿五錢　郵送料金四錢

右は有名なる大英國マクレオド氏の原著にして英國銀行並に其他諸銀行の組織、性質、事務の大概及び其法律、慣習、歷史の要旨を說き其間小切手の作用、交換の方法等を論ずる者乃ち

●目賀田右仲君編輯

大日本國立銀行一覽表

一枚　定價金五錢　郵稅五枚迄金貳錢

本表は全國百五十有餘の國立銀行、銅業又は有名銀店及合併等の年月幷に現在の位置、資本金、積立金、發行紙幣、頭取、支配人姓名等に至る迄詳細表示したるものにして銀行家は勿論其他商賣銀行に關係せらるゝ者には坐右欠くべからざるものなり

●東京市會議長楠本正隆君序●前東京市會議員伴道之助君著

東京市水道改良意見

全一冊　定價金八錢　郵稅金貳錢

右は本市百三十萬人の安危休戚に大關係ある給水排水の事を切論せる時事論文なり

●前日本銀行總裁富田鐵之助君題字●丹羽豐七君編纂

英國パツタの跡形

全一冊　定價貳拾錢　郵送料貳錢

本書は英國金融の由來を指導編纂したるものにして間金利高低の表を以て付するに詳明なる英國に於ける五

●海野力太郎君著

野線學

全一冊　定價金廿五錢　郵稅金四錢

右は海野力太郎君の創始に係る一種の新學派にして各種の野線を施して世間百般の記事を分明ならしむるの方法を詳論せるものなり

●田口卯吉君序●根岸鬼三郎君跋●海野力太郎君編纂

簿記學起原考

全一冊　定價金六錢　郵稅金貳錢

右は海野力太郎君が歐米諸大家の著書に就て斯學の起原及び其沿革を纂譯し簿記法を學ぶ者の便用に供せられしものなり

●米國ポスエル氏原著●海野力太郎君編述

元帳一切の圖

彩色摺全一枚　定價金三錢　郵稅金貳錢

右は元帳に切の法を細かに解したる米國有名の原著「ペランスチンセート」を飜譯したるものなれば簿記を學ぶ者には甚だ春秋の表なり

●文部省檢定濟高等小學校教科用書●藤尾錄郎君著●田口卯吉君序

實地應用家計簿記法

全一冊　定價金貳拾錢　郵送料金四錢

此書は唯朝夕數字をたに記入せば一家の出納細大漏さず之を明にするを得せしむるものにして公私の學校生徒は固より官吏會社員農工商に論なく凡そ一家を經營する者は必ず攝讀すべきの要書なり

●文部省檢定濟高等小學校教科用書●藤尾錄郎君著

實地應用家計簿記法例題

全一冊　定價金拾錢　郵送料金貳錢

右は前書家計簿記法に據り記入法を習學せんとする者の爲に例題を設て其標準を示したるものなり

●日記帳　價金六錢　郵稅貳錢

●元帳　價金六錢　郵稅貳錢

●賄費仕拂帳　價金拾壹錢　郵稅四錢

右三帳簿を一と纏りになす時は郵稅六錢

右は前書家計簿記法を實用なされ候方は勿論又同法例題により簿記法を習學なされ候
女學生諸君其他一般に簿記を習熟せられんとする方々の御便利の爲めに調製せしもの
にして此三帳簿あれば一家の經濟を容易に整理し得べく若くは容易に家計簿記法を習
熟することを得べき極めて重寶なる帳簿なり

●件直之助君編

日光案内

英文

全一冊　定價金拾五錢　郵税金貳錢

此書は日光山境内及東京日光間鐵道線圖を挿入し詳細に日光の勝地を解示したるもの
にて日光諸山の海面よりの高さ何尺と云ふまで分る面白くして有益の袖珍書なり

●經濟雜誌社謹刻

群書類從

全十九冊　四六形洋裝美本　紙數二萬一千頁　代價金三拾圓

本書は誰れも知れる如く二千年來書者の偉人塙保己一の編纂する所にして
我邦の逸書本書に於て殆んど網羅せり實に空前絶後の一
大珍書なり

(十二)

●英國モンクレヴアン原著●故嵯峨正作君譯述

英國自由保護兩黨活劇史

全一冊　定價金五拾五錢　郵税金四錢

此書は當十九世紀の初より英國に穀物條例なる者あり大に勢力を有せしかば遂に國内
に之を不可とする者と之を可とする者との兩派黨を現出し各々論陣を張り激論烈爭せ
し顛末を記せしものなり

●德富猪一郎君序●田口卯吉君演說

條約改正論

再版

全一冊　定價金四錢　郵税金貳錢

往年條約改正論沸騰の秋に際し當時最も嚣々たりし内地雜居の利害、憲法違背の
有無に付論ずとして敵き起し條約改正の斷行せざる可らざる所以の理由を論述せしも
のなり

●田口卯吉君閲●井上彦三郎君、鈴木經勳君合著

南島巡航記

全一冊　定價金三拾錢　郵送料金四錢

此書は明治十三年の一大問題なりし南島巡航の顛末を記し諸島蠻民の風俗、人情、
言語並に貿易の事情を述べたるものにして其の記事珍々奇々なり

(十三)

●倫敦松方正義君、子爵渡邊昇君題字●花房義質君題言●安川繁成君、石橋重朝君序●川田小一郎君、故中井弘君序●故櫻洲山人中井弘君校閲●細川雄二郎君編纂

日本財政總覽

國庫財政編表之部

大本定価 上製本金七圓 全三冊 假價 綴金六圓五十錢

（十四）

本書は我國財政上の一大寶典にして明治年間統計的著述中の巨擘たる事は已に公評の存する所なり苟も經國濟民の術を講ぜんと欲する所の者は此書に據らずして將た何に由てか之を求めん

●大蔵大臣渡邊國武君題字●前大蔵大臣秘書官倉橋一郎君序●堀新田則三君序●故櫻洲山人中井弘君、細川雄二郎君解疏

明治財政要鑑

全一冊 定價金六拾錢 郵送料金四錢

本書は渡邊大蔵大臣閣下の起草に係る廿三年間財政の結果を題するもの又日本の財政と稱するに値する者にして我國財政上の要領を較計し且剩餘金の精數等を示せり高に忘るべからざる日本財政總書と共に參考すべき可らざるの珍書也

●田口卯吉君著

居留地制度ト内地雜居

全一冊 定價金六錢 郵税金二錢

右は最日非常地雜居論大に起り再たび條約改正を遲延せんとするの傾向ありし時に方り明治君之を著はせしものなり

●神鶴千吾君譯●精巧なる自筆入

西洋經濟學者列傳

全一冊 定價金卅五錢 郵送料金六錢

故の倫敦經濟雜誌記者ベートッホウト曰くアダムスミスの履歴を知るにあらざれば以て其著富國論を解すべからずと嗚呼何ぞ獨り富國論のみならんや諸家の經濟書亦多くは然るなり今や經濟學大に流行し泰西諸家の傳を記述せるものなし是れ此書を發行する所以なり

●川上廣樹君譯註

讀古事記

全一冊 定價金卅五錢 郵送料金四錢

此は古事記を本根とし文に譯し且古來大家の註釋を付記したるものにて皇國の古傳を知るに此書に若くものなし

（十五）

●渡邊修二郎君著

世界ニ於ケル日本人

全一冊

定價金壹圓廿五錢
郵送料金拾四錢

此書先ず世界の大勢と日本國との關係より說き起して退縮政策の國を誤る所以を指示し次に歷史上の對外問題に移り日本と歐米との交渉、日本と西南洋諸國との交渉、日本と亞細亞大陸東部との交渉を論述し附するに內外形勢通覽表記を以てし又た精刻殆稀なる圖畫并古筆跡十九種を挿入したる

一大珍書なり

（十二）

●近衛公爵及文學博士末松謙澄君序●猶堂野史久松義典君著

北海道通覽

全一冊

定價金壹圓貳拾錢
小包郵送は四百目の運賃を要す

本書は編を分つこと廿七曰く土地、植民、官衙、屯田兵、漁獵及採藻、農牧及養蠶、銀行會社、製造所、商業、外國貿易、金融、賃金、土川離宮、千島探檢、交通運輸、道路港灣、名宿家、實業者及有志家、區會議員及總代人、教育、衛生、教門、新聞雜誌、名所舊蹟、旅舍料理店、別に北海道歷史及び北海道の人物、山、川、湖、沼、海、岬、島、嶼、温泉、鑛山、名所、古蹟、人物、神社、佛閣、名所舊蹟、旅舍料理店、別に北海道歷史及び北海道の人物を分つこと廿七曰く土地、植民、官衙、屯田兵、漁獵及採藻、農牧及養蠶、銀行會社、製造所、商業、外國貿易、金融、賃金、土川離宮、千島探檢、交通運輸、道路港灣、名宿家、實業者及有志家、區會議員及總代人、教育、衛生、教門、新聞雜誌、名所舊蹟、旅舍料理店、別に北海道歷史及び北海道の人物、山、川、湖、沼、海、岬、島、嶼、温泉、鑛山、名所、古蹟、人物、神社、佛閣、名所舊蹟、旅舍料理店、別に北海道歷史及び北

一大寶典なり

●渡邊國武君著述●田口卯吉君序歌●芳賀彌太君著

人物評論

全一冊

定價金壹圓五錢
郵送料金四錢

世人の人物を評するや、其の人の性質を下だしこれが細則を立て立論する日尤も甚だしとなす、本書川家康、豐臣秀吉、織田信長、伊達政宗、[illegible]

●外務大臣林董君及秀英舍長佐久間貞一君序●吹田鋼六君譯

勞働問題

全一冊

定價金壹圓五錢
郵送料金四錢

此書は英國の勞働問題を論ずるに立法、[illegible]氏が其の得意の論法を以て勞働問題を論ずるに立法、[illegible]定するに關する法律の效驗を明白ならしめ[illegible]たるものなれば身、立法の局に當る[illegible]者は一讀すべき價値あるものなり

（十三）

●樋井吉郎君著

紀行文集

全一冊　定價金拾八錢　郵送料金四錢

仕にして幽邃の深山に入り、仕にして九坂の渓谷に迷ひ、名勝古蹟を尋ね、人情風俗を探り、遠近を遊歷し、各地を經歷する事、大快事なり、然れ共是容易の事に非ず、此書、机頭に横たはるや、外に遊歩し、豈亦快ならずや、此書吾人が各地に遊歩考に供し、又修辭作文の助となし得べ

●嘉納治五郎君、小池靖一君、田口卯吉君序●桑原啓一君纂譯

新編世界歷史

全一冊　定價金壹圓卅錢　郵送料金拾四錢

本書は歐洲文明の起源なるのみならず、世界に於ける各國の歷史なり、美人、英雄、詩人、辯士、演じ去に空前絶後の大奇觀を呈出し、其事實は、人類の歷史なり、其事實は、人類の歷史なり、及ばず、諸學校の教科書、●英清堂發賣

●島田重禮先生君序●横瀬貞君輯

近世名家碑文集

全一冊　定價金七拾錢　郵送料金八錢

其碑の正確なる、性行事蹟を知るは、碑文に若かず、しかるに近古文教隆盛の運を開き、今日の興隆を見るに至るまで、碑文に表現せる所の、前賢のカ、山より出でし、村、郡、市、郷、各無慮、百人、其碑、行狀、墓誌、並に當時の學政教育の方法、以て詳に、しかして、其碑、銘、墓碑、たるや、碑を、各家の、墓に、成るものなり、以て、旁ら、詞藻を、賞し、修辭の、學、の、資、に、供すべし、世の、歷史、教育、家、教育、家、操觚の、士、座右、一日、も、缺く、可らざるの、良

●田口卯吉君序●相馬愛藏君著

種製造論

全一冊　定價三拾錢　郵稅四錢

業、の、盛、衰、は、原、因、然、れ、ども、未、だ、之、を、明、かにせず、而、して、効、果、を、得、長、野、群、馬、福、島、北、海、道、の、各、地、を、巡、視、し、之、を、故、老、先、輩、に、質、し、其、の、長、所、を、採、り、其、の、短、所、を、捨、て、以、て、本、邦、の、實、情、に、適、し、其、の、利、益、を、盡、さ、ん、が、為、に、世、を、警、かん、が、為、に、此、著、あり、其、青、白、種、に、關、する、新、說、の、如

●帝國財政革新會編輯

帝國財政革新論綱　全一冊　定價金拾錢　郵稅金二錢

此書は帝國財政革新會より朝野の政治家に贈れる書簡並に其廢止輕減せんと欲する租稅、[illegible]貨金の論文を[illegible]したるものにして苟も人民を害め、國産を害す[illegible]に公にし[illegible]世の財政を談せんと欲するもの豈に一讀せずして[illegible]

●田島仁吉君校

經濟叢書　大學或問　熊澤蕃山著　全一冊　定價金拾錢　郵稅金貳錢

世の[illegible]近古の[illegible]に就きて政治經濟の[illegible]を求むる者、[illegible]に指を屈せざるはなし[illegible]其書[illegible]一[illegible]其人太[illegible]明[illegible]百年[illegible]不足[illegible]かを[illegible]なり、然るに[illegible]して[illegible]を以て斯[illegible]たりしを見るべき[illegible]而して此書は[illegible]

●田島仁吉君校

經濟叢書　政談　荻生徂徠著　全一冊　定價金三拾錢　郵送料金六錢

[illegible]の政談に曰く、政談の書は明かに時勢に人情に當るべきを求めざる故、此の[illegible]に[illegible]、目[illegible]を[illegible]に[illegible]、此書は[illegible]の今[illegible]して[illegible]細大漏さず、之を古書[illegible]論に徴して論辨せず、時勢を[illegible]へて今の政治を論ぜんとするもの豈に一讀せざるべけんや

●田島仁吉君校

經濟叢書　經濟錄　太宰春臺著　全一冊　定價金四拾錢　郵送料金六錢

春臺の言に曰く、孔子の道は先王の道なり、先王の道は天下を治むるの道なりと、又曰く之を天下國家を治むるを經濟と云ふ、而して此の書は即ち先王孔子の道に準據[illegible]入書、漢書の十志等に比すべきものな[illegible]治國平天下の道を知らんと欲する者は此書を讀まざる可からず。

●鹽島仁吉君校

經濟叢書 中井積善著 草茅危言

全一冊 定價金三拾錢 郵送料金六錢

著者の言に曰く、幾許て政をするに當書を擇ばざれば新澤を施す所なし、況や弊害[illegible]に改むれば利澤自ら其の中に存して、別に施すを待ざるものもあるをやと、著者の[illegible]の事を論じ[illegible]、宜なるかな其の所論の多く時弊に中せるや、今や時勢一變せりと雖も、苟も政治に志あるもの豈に一讀せざるべけんや

●英國ギバンス氏著●田口卯吉君序
●英國ボーラード氏譯●秋山耕平君纂譯

新成 經濟學粹

第五高等中學校教科用

小像小傳入 全二冊 定價金八拾錢 郵税金拾貳錢

[illegible]新派經濟學者中別に一旗幟を建たる頭領下、ラナレイ氏が普通經濟學の體例を[illegible]一機軸を出したる新著にして其主義は道德の實踐公政の寬公を旨とし[illegible]以て利用[illegible]の實[illegible]て泰西の學校は近年此書を其教科書に用ひ居ると云ふ以て其[illegible]を知るべし

古雅なる繪畫入。改良半紙刷。紙數百八十六頁。和裝

職人盡し 七十一番歌合

全二冊 定價金廿五錢 郵税金四錢

此書の編者詳ならず、作者が世に歴史上著書として諸書に引用さるゝ處なり、其原品は繪巻物として故實家の秘庫に藏し未だ世に普及せず、當時民間七十一種の職業を畫き月を題とし花を題として各種の歌を詠じ之に判の詞を加へたる者なり、即ち殆んど當時の職業を網羅したる者にして其畫と云ひ其の詞と云ひ足利時代の風俗を觀るべき一大珍書なれば歌道に志す人に非ざるも歴史上の参考として各人一本を座右に備ふべきものなり

●田口卯吉君閲●鹽島仁吉君編

毎月一回發兌

[illegible]

現今第四巻發兌

定價 一冊金拾錢、五冊前金四拾錢、十冊前金七拾五錢、市外一冊に付郵税金壹錢增

此書は[illegible]の事蹟を[illegible]記述し之に評論を加へたるものなり、今[illegible]と雖も、皆碎玉斷片にして、昨是今非、其の事實を概括し其顛末を明にせしもののあるなし、是れ此書を發行する所以なり、[illegible]諸君[illegible]

明治廿三年十月創立

毎土曜日發兌

東京經濟雜誌

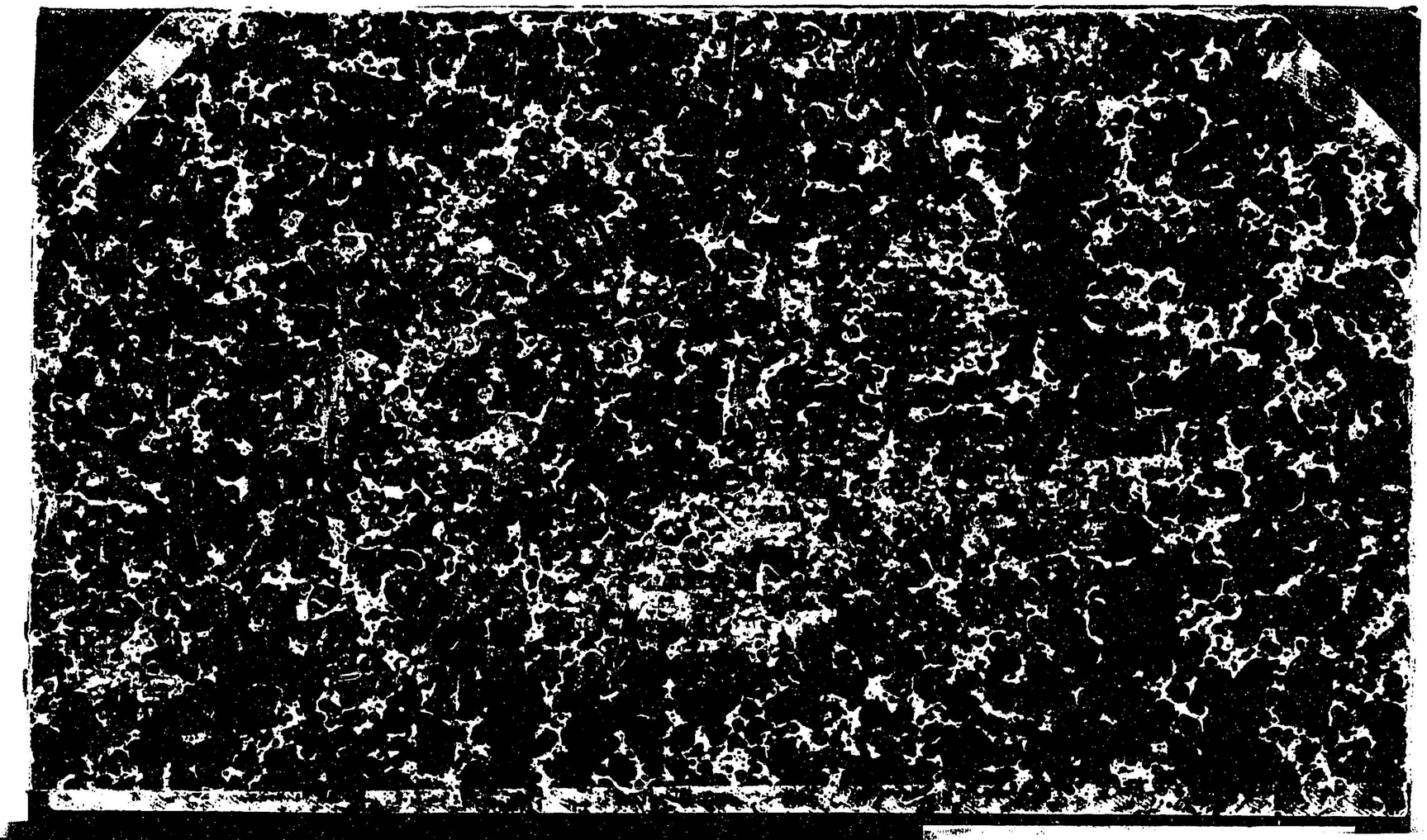
現今第七百六十八號發兌

（二十四）

一冊現金七錢（郵税共七錢五厘）○十冊前金郵税共七拾錢○半ヶ年分（廿六冊）同壹圓六拾九錢○一年分（五十二冊）同三圓拾貳錢○但東京市内は不要郵税

我東京經濟雜誌は財政銀行商業に關する專門の週報にして傍ら政事上文學上其他社會萬般の事件を論議報道する書なり尚ほ倫敦の「エコノミスト」雜誌、紐育の「ペンカリス、マガヂン」雜誌、巴理の「エコノミー、オヲノセー」雜誌の如くにして各文明國以上此類の雜誌わりなれば凡そ社會の要件は正確誤謬なき者を選拔して網羅漏すなく加ふるに毎半季總目錄を製して合本に便するが故に敢て索引すれば社會の事件實ところ之を見るを得べし而して今や我同會の形勢は第一年に益々經濟及商業上に關向するの運に會せるが故に彼々議論を正大にし議事を精確にし以て經濟上の機關たるの任を盡さんことを期す江湖の諸君時ふ幸に購讀あらんことを

東京市京橋區濱左衛門町七番地

發行人　經濟雜誌社

電話三百二十三番